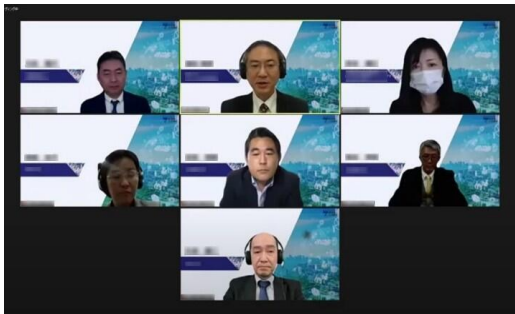


令和3年度 岐阜大学の動向



岐阜大学の将来ビジョン

(2021年度に向けて)



R3.04.01
岐阜大学
GIFU UNIVERSITY

「地域活性化の中核拠点であると同時に、強み・特色を有する分野において全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」を目指します。

第3期中の取組

教育

高度な専門職業人の養成
地域単位でのTeach for Communities

取組

- 新教員組織（教育研究院）の立上げ
- 理系修士課程（自然科学技術研究科）の設置、博士課程の教組とデザイン思考教育、マネジメント教育の導入
- 経営/マネジメント教育部門の立上げ：社会システム経営学環
- 教員養成課程の機能強化
- 大学院の充実
- 社会人の学び直し教育への環境整備（ME養成のための施設整備）
- 医学教育共同利用拠点の機能強化と世界水準の医学教育開発の推進（フェローシップ立上げと学位（修士）化）
- 医学教育の充実（国際認証、看護学料定員見直し、医療過疎対策）
- 獣医学博士課程の再編（連読の解消、共同獣医専攻立上げ）
- 全学共通教育における英語教育の充実、数理データサイエンス教育の強化、農林畜産学教育の充実
- 入試方法の改善
- 教育推進・学生支援機構による教育の質保証システムの向上及び多様な学生への学修等支援の推進

教育推進、学生支援機構

グローバル推進機構

国際化

地域に根ざした国際化と
学術研究・産学官連携推進本部

取組

- グローバル人材養成プログラムの整備充実（南アジア・ASEANを中心とした地域における海外オフィス・共同実験室の展開）
- 日本人学生と留学生の混在型教育の充実
- 海外協定大学とのJoint Degreeプログラム開始
- 多文化共生型による国際教養コースの設置
- 教員海外研修、事務職員海外実務研修の強化
- 留学生の就学・就職支援（インターンシップ）強化（東海コンソーシアム化）
- 留学生ネットワークの整備
- 諸団体、他大学とのグローバル事業共同展開

研究

教育の基盤としての
質の高い研究を展開

取組

- 生命科学/医薬品/iCeMS研究拠点（生命の連続性研究センター）の充実
- 地方創生エネルギーシステム研究センターの形成
- Guコンボット研究センターの拡充/地域連携入
- マート金型技術研究センターの拡充
- 水環境リターナター学術プログラム化
- 学術研究・産学官連携推進本部による支援体制の強化

高等研究院

大学病院

高度医療拠点としての機能
強化と地域医療への貢献

取組

- 地域連携の基盤に立った拠点機能の強化（バースセンターの器具内設置、手術棟の建設、重粒子線治療施設の導入）
- 臨床研修体制の強化と自治体等との連携による地域医療人材の育成
- 臨床研究と創薬・新医療技術開発の推進
- 医療情報（電子カルテ）システムの統合

社会貢献

地域社会の
活性化に貢献

取組

- 岐阜県との連携による教育研究の推進と地域貢献（防災・被災センター事業の推進、岐阜県中央気象予報健康衛生所、食品科学研究所のキャンパス内移転、さふ地域学校協働活動センターの設置、航空宇宙生産技術開発センターの立上げ）
- COC事業とCOC+事業の育成（地域志向人材の育成・認証）
- 産学連携事業による地域産業界への貢献を推進（東海（中部）コンソーシアム化、産学金官プロジェクト）
- タイバーシティ戦略の具内展開

情報連携推進本部

大学戦略室

取組

- 多様な人材の登用と育成（女性幹部職登用、技術職員、高度専門職員の育成）
- 年俸制の導入
- 教員評価システムの検証・改善

東海国立大学機構の立上げ (2020年4月1日)

ガバナンス改革

取組

- 大学全体としてのガバナンスの透明化、浸透
- 研究倫理をはじめとする法令遵守等に基づく適正法人運営
- IR機能の活用による学内資源の再配分と教育研究組織の見直し

管理部、大学戦略室

広報室

取組

- 学術研究・産学官連携推進本部

～ 将来ビジョンに関連する取組 ～

【教育】

・コロナ禍による影響	6
・岐阜県農業技術センターと連携大学院方式による教育研究協力に関する協定締結	7
・新課程「社会システム経営学環」を新設	8
・高大連携「宇宙工学講座」の開講	10
・産業動物臨床実習施設が完成	11
・岐阜県と「感染症寄附講座」の設置に関する協定締結	12
・『岐阜大学起業プログラムおよび岐阜大学発学生ベンチャー』 学長記者会見を実施	14
・第81回医学教育セミナーとワークショップを開催	16
・スマート環境制御対応温室を設置	17
・産学金官連携人材育成・定着プロジェクト「成果発表会」を開催	18
・岐阜大学シンポジウム「インクルーシブ教育時代における学校管理職の育成」を開催	19

【研究】

・産学連携教授・産学連携准教授の称号付与及び産学連携重点研究室の授与式開催	21
・応用生物科学部 山根京子准教授が「第12回辻静雄食文化賞」を受賞	22
・日本原産フキノトウからがんの増殖・転移を強く抑制する物質を発見	23
・岐阜大学スマート金型開発事業シンポジウムを開催	24
・岐阜県気候変動適応センターが共同研究成果記者説明会を開催	25
・がんの悪性化に関わる糖鎖合成酵素GnT-Vは糖鎖をつけるタンパク質を選ぶ	27
・第6回流域圏保全研究推進セミナーを開催	28

【国際化】

- ・杉原千畝記念館 館長特別講演会「在カウナス領事代理 杉原千畝に学ぶ」を開催 …… 30
- ・2021サマースクール(受入)をオンラインで開講 …… 31
- ・ジョイント・ディグリープログラム国際連携食品科学技術専攻(修士課程)の
第1期生(インド工科大学グワハティ校入学)が修了 …… 32
- ・インド工科大学グワハティ校と合同ウェビナーを開催 …… 33
- ・広西大学との農学系合同研究シンポジウムをオンラインで開催 …… 34
- ・2021年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催 …… 35
- ・連合農学研究科が「The 9th UGSAS-GU Symposium & Roundtable 2021」を開催 …… 36
- ・岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2021を開催 …… 37

【社会貢献】

- ・岐阜大に最高評価 文部科学省「拠点大学による地方創生推進事業」 …… 39
- ・岐阜県内公共団体との連携協定締結状況 …… 41
- ・岐阜県と「岐阜県野生動物管理推進センターの設置に関する協定」を締結 …… 42
- ・岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト「くるるセミナー20周年記念 特別セミナー」を開催
…… 44
- ・次世代地域リーダーの育成及び岐阜市における青少年の健全育成と
生涯学習の 推進に向けた連携に関する協定を締結 …… 46
- ・次世代地域リーダーの協働育成の推進に関する覚書を締結 …… 47

【大学病院】

- ・岐阜大学高等研究院遺伝子検査室が登録衛生検査所に認可 …… 50
- ・オンライン実習「岐阜大学病院バーチャル見学」を開催 …… 52
- ・アレルギーセンター市民公開講座を開催 …… 53
- ・岐阜県難聴児支援センター開所式を開催 …… 54
- ・インタラクティブサイネージ贈呈式を実施 …… 55
- ・附属病院栄養管理室が日本病態栄養学会年次学術集会レシコンテストで入賞 …… 56
- ・岐阜大学医学部附属病院手術棟竣工式を実施 …… 57

～ 学生活動等 ～

- ・医学部看護学科学生がオンライン教材(健康体操)考案 …… 59
- ・「学生フォーミュラ日本大会2021」プレゼンテーション審査において1位を獲得 …… 60
- ・「愛知県大学対抗ハッカソン“Hack Aichi”」最優秀賞を受賞 …… 61
- ・岐阜大学生チーム「iGEM Gifu」 2021 iGEM Giant Jamboreeで金賞を受賞 …… 62
- ・起業部学生チームが「Tongaliアイデアピッチコンテスト2021」「2021東海学生AWARD」で
最優秀賞を受賞 …… 63
- ・「eco検定アワード2021」エコユニット部門 大賞を受賞 …… 64
- ・ASCN(アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク)2021年次大会において「金賞」を受賞
…… 65

～ その他 ～

【国立大学法人東海国立大学機構】

- ・航空宇宙生産技術開発センター開所 …… 67
- ・環境報告書2021を発行 …… 69
- ・次期 機構長候補者／大学総括理事候補者 …… 70
- ・『東海クライマックスシリーズ』を開催 …… 72
- ・財務レポート2021を発行 …… 74
- ・統合報告書2021を発行 …… 75
- ・ヒューマンライコームプロジェクトにおける連携・協力に関する覚書を締結 …… 76
- ・信用格付け新規取得 …… 77
- ・『生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム』
文部科学省 職業実践力育成プログラムに認定 …… 78
- ・経済産業省 産学連携推進事業費補助金(地域の中核大学の産学融合拠点の整備)に採択
…… 79
- ・第72回岐阜新聞大賞 …… 80

将来ビジョン 「教育」

教 育

高度な専門職業人の養成
地域単位でのTeach for
Communities

- 新教員組織（教育研究院）の立上げ
- 理系修士課程（自然科学技術研究科）の設置・博士課程の改組とデザイン思考教育・マネジメント教育の導入
- 経営／マネジメント教育部門の立上げ：社会システム経営学環
- 大学機関別認証評価
- 教員養成課程の機能強化（学部定員見直し、推薦入試導入、教職大学院の充実）
- 社会人の学び直し教育への環境整備（ME養成のための施設整備）
- 医学教育共同利用拠点の機能強化と世界水準の医学教育開発の推進（フェロシップ立上げと学位（修士）化）
- 医学教育の充実（国際認証、看護学科定員見直し、医療過疎対策）
- 獣医学博士課程の再編（連獣の解消、共同獣医専攻立上げ）
- 全学共通教育における英語教育の充実、数理データサイエンス教育の強化、農林畜産学教育の充実
- 入試方法の改善
- 教育推進・学生支援機構による教育の質保証システムの向上及び多様な学生への学修等支援の推進



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

コロナ禍による影響

【概要】

令和3年4月7日（水）の本学入学式は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、新入生の健康・安全面を最優先に考えた結果、代表者のみの出席により挙行いたしました。

本学は、新入生の皆様のご入学を心から歓迎するとともに、学問への取り組みや様々な活動への挑戦を全力で支援します。



森脇学長から代表者に学位記を授与

コロナ禍における 岐阜大学の教育学生生活に関する取り組み

安心して学べる環境づくり

森脇 久隆

新や考え方を深く学ぶことができる対面授業は大学教育の根幹を成すものとの考えから、特に大学の学びに慣れている1年生の授業については、できるだけ対面授業が実施できるよう、早い段階から努めてきました。

これから岐阜大入学を目指す皆様にも安心して大学生生活を送ってもらえるよう、本線で本学の取り組んできたコロナ対策の一部をご紹介します。今後も、より一層安全に配慮しながら教育の質の向上を目指してまいりますので、皆様のご理解・ご協力を賜りたいと思います。

方策を検討してきました。また、コロナ禍で不安になっている学生の心のケアについても対応してきました。大学教育は知識習得のみを目的とするのではなく、専攻に対する情

授業における取り組み

- 教室の定員制限
- 消毒、ウエットティッシュの配付
- 通信授業の取り組み
- ZOOMを活用した授業の様子

学生生活における取り組み

授業の定員制限

消毒、ウエットティッシュの配付

通信授業の取り組み

ZOOMを活用した授業の様子

メンタルヘルスのオンライン相談

留學センターへの入校

PC・タブレットの購入支援

留学生支援

学生生活プラン

学生を大学で雇用

※ 岐大のいぶき No.41 2021 Spring-Summer より

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/4/8	岐阜	「社会担う力を育む」 岐阜大入学生代表が決意 ～ 応用生物科学部 浅見紬さん、教育学研究科 幅伊吹さん～
2021/4/8	中日	新入生代表18人で入学式 岐阜大・規模を縮小 ～ 応用生物科学部 浅見紬さん、教育学研究科 幅伊吹さん～

岐阜県農業技術センターと連携大学院方式による 教育研究協力に関する協定締結

【概要】

令和3年4月27日（火）に、本学大学院自然科学技術研究科（以下「自然研」という。）は岐阜県農業技術センターと連携大学院方式による教育研究協力に関する協定を締結しました。

本協定は相互に連携し大学院生への研究指導を行う連携大学院方式により、研究活動の推進及びその成果の普及と教育研究活動の一層の充実を図り、本県農業の振興とそれを担う人材の育成に寄与することを目的としています。

協定書締結式では、岐阜県農業技術センター宮田和也所長、自然研の光永研究科長が協定書へ署名を行いました。その後、岐阜県農業技術センター宮田和也所長から「大学との連携を深めることにより、大学が保有する先端技術の知見やノウハウを活用した研究が促進できるとともに、将来の岐阜県農業を支える研究人材の育成につながるものと大変期待している。」と挨拶があり、自然研の光永研究科長は「応用実践教育が求められる中、岐阜県農業技術センターとの連携は極めて重要である」と述べました。

今後は、大学院生の県農業研究への直接参画や、県農業技術センター研究員が指導教員となる大学院生へ指導等を実施し、自然科学技術研究科での学びを充実させていきます。



挨拶する光永研究科長



協定書を手にする宮田所長(左)と光永研究科長(右)

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/5/3	中日	院生指導で連携 県農業技術センター 岐阜大と協定締結 ～自然科学技術研究科 光永徹研究科長～
2021/5/7	岐阜	県農業技術センターと岐阜大大学院 農業研究参加で協定 ～自然科学技術研究科 光永徹研究科長～

新課程「社会システム経営学環」を新設

【概要】

令和3年4月1日付で設置した社会システム経営学環（以下、「経営学環」という。）をさらに広く知っていただき、教育研究活動、社会貢献活動を今後一段と発展させるために、6月30日（水）に表札除幕式及びシンポジウムの設置記念行事を挙行了しました。

経営学環の表札の除幕式は、全学共通教育講義棟前で開催しました。初めに森脇学長から激励を込めた挨拶があり、肥後 睦輝経営学環長から設置に至るまでの多数の協力者への謝辞とともに、学生、教職員とともになお一層前進したいとの思いが述べられ、経営学環の1期生を代表して小椋 一瑛さんから、決意を新たにされた挨拶がありました。続いて、表札の序幕が執り行われ、森脇学長、学生、教職員による記念撮影を行い、更なる飛躍を祈念しました。次に、会場を講堂に移し、オンラインを併用した社会システム経営学環設置記念シンポジウム『探求と探究「学び」を「環」にする岐阜大学の挑戦』を開催しました。

肥後経営学環長の開催挨拶及び経営学環の概要説明の後、第1部は、「地域社会を変えていく起業家とは？ 30年に及ぶ起業家人生を通じて」と題して、Global Mobility Service株式会社 中島 徳至代表取締役社長による基調講演を行いました。第2部は、「多様な学びを「環」にしてこれからの社会をつくる」と題して、経営学環 高木 朗義教授をコーディネーターとして、伊藤 知子氏（長良川温泉若女将协会会长）、岡田 さや加氏（柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社代表取締役）、鈴木 哲馬氏（岐阜県中小企業家同友会代表理事）、中島 徳至氏（先述）ら4名の登壇者がそれぞれの立場から議論を交わす、パネルディスカッションを行いました。質疑応答では経営学環の学生からの質問などもあり、会場全体で議論を深めました。

本シンポジウムには学内外145人の参加がありました。経営学環における人材養成のあり方を様々な視点で議論したシンポジウムから得た学びを、経営学環における教育・研究・社会貢献の発展に活かしていきます。



代表挨拶をする小椋 一瑛さん

教育推進・学生支援機構



設置記念シンポジウム
中島 徳至氏による「基調講演」

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/7/1	岐阜	社会システム経営学環 岐阜大新課程 看板の除幕式 1期生は32人 ～ 肥後睦輝学環長、1期生 小椋一瑳さん～
2021/7/1	中日	岐阜大新学環 表札の除幕式 ～ 森脇久隆学長、1期生 小椋一瑳さん～

高大連携「宇宙工学講座」の開講

【概要】

本学地域協学センターは、令和3年7月4日（日）に令和3年度宇宙工学講座開講式を岐阜かかみがはら航空宇宙博物館にて開催し、本講座を受講・聴講する岐阜県内の高校生及び高専生らが出席しました。また、一部の受講生はリモートで参加しました。

宇宙工学講座は、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」における高大連携事業の一環として、本センターが航空宇宙生産技術開発センターの協力のもと、岐阜県、各務原市、岐阜県教育委員会、岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、岐阜工業高等専門学校と連携して実施しています。岐阜県内の高校生及び3年生までの高専生が、岐阜大学教員、JAXA等の講師による最先端の宇宙工学に関する教育をオンラインで受講することができ、今年度は63名が受講・聴講します。なお、これまでの5年間でのべ66校が参加、211名の修了生を輩出しています。

開講式では森脇学長からの挨拶、国内外の宇宙機関・関係者のビデオメッセージ、受講生紹介などが行われました。また、缶サット甲子園全国大会で技術賞を受賞した岐阜工業高等専門学校チームによる「缶サット甲子園全国大会」の報告、講座の修了生らによるJAXAプロジェクト「はやぶさ2カプセル研究プロジェクト」の報告があり、森脇学長と村井工学部長との質疑応答が行われました。

今後本講座では、12月18日（土）の閉講式までに9回の講義が実施される予定です。



プロジェクト報告者と森脇学長、村井工学部長との質疑応答の様子



出席者の記念撮影の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/7/6	岐阜	宇宙工学 膨らむ興味 高大連携の岐阜大講座 宇宙博 で開講式

産業動物臨床実習施設が完成

【概要】

令和2年度より整備を進めてきた本学柳戸農場内の「産業動物臨床実習施設」が完成しました。

本施設は、主に応用生物科学部の教育研究に使用し、将来の産業動物獣医師および畜産専門職業人の育成のために活用されます。隣接する岐阜県中央家畜保健衛生所ともさらに連携を強化し、伝染病の発生予防、蔓延防止に努めていきます。また、本学のようにキャンパス内に畜産施設が併設されている大学は近隣にはないため、他大学の実習にも活かされます。

令和3年7月26日（月）には見学会を開催し、学内関係者18名が参加しました。参加者からは「この実習施設の完成により、教育効果向上と研究支援効果向上が、大いに期待できる」との声がありました。

本施設は本年度末の本格運用開始を目指します。



完成した実習施設



施設内の様子



見学会の様子



説明する大場岐阜フィールド科学教育研究センター長

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2021/7/27	CCN 地上デジタル12ch 「エアトピックス」	産業動物臨床実習施設の竣工・見学会の様子を紹介

岐阜県と「感染症寄附講座」の設置に関する協定締結

【概要】

岐阜大学と岐阜県は、令和3年7月30日(金)に、県内における質の高い感染症教育による専門医の育成等を目的に、「感染症寄附講座(岐阜県)」を岐阜大学大学院医学系研究科に設置することとし、それに関する協定を締結しました。

本協定は、感染症の診療及び制御に長けた医療従事者を育成し、岐阜県の感染症全般にわたる医療提供体制の一層の充実を図るため、「県内感染症専門人材の育成」、「地域連携による県内感染制御体制の強化」、「感染症学・感染制御学・感染症災害に関する学術的研究の実施」を目的とし、寄附講座を設置するものです。

協定締結式では、古田肇岐阜県知事、森脇久隆岐阜大学長が協定書に署名を行いました。その後、森脇学長から「当面は新型コロナウイルス感染症への対応が中心となるが、今までの臓器別の感染症対応から、横断的、つまり全身を見ながらの感染症対策につなげることができる」と寄附に対する謝辞があり、古田知事からは「感染症専門医の人材不足への対応を期待し、感染症対応の体制をともに作っていきたい」と挨拶がありました。

本協定の締結を契機として、新型コロナウイルス感染症対応等、岐阜県の感染症に対する体制を強化するとともに、将来「新興感染症」が発生した場合においても、県民の安全・安心を高められるよう邁進していきます。



協定書署名後の記念写真

(左から堀岐阜県健康福祉部長、古田知事、森脇学長、中島医学系研究科長、小倉教授(救急・災害医学分野))

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/7/31	岐阜	岐阜大に感染症講座 人材育成 県の寄付で設置
2021/7/31	中日	感染症の人材育成 岐阜大に寄付講座 県と協定締結 ～ 森脇久隆 学長 ～
2021/7/31	読売	感染症寄付講座 県と岐阜大協定 ～ 森脇久隆 学長 ～

『岐阜大学起業プログラムおよび岐阜大学発学生ベンチャー』について学長記者会見を実施

【概要】

本学は、令和3年10月7日（木）に令和3年度第2回学長記者会見を実施しました。今回の会見では、最初に森脇学長が「岐阜大学起業プログラムおよび岐阜大学発学生ベンチャー」について、「新しい大学モデルと持続的かつ先導的な東海地域 TOKAI-PRACTISS」および「地域展開ビジョン2030」と関連させて説明を行いました。次いで上原雅行学術研究・産学官連携推進本部副部門長から、本学における起業支援に関する取り組みについて、自然科学技術研究科物質・ものづくり工学専攻2年 長曾我部竣也（FiberCraze株式会社 代表取締役社長）から、設立したベンチャー企業の事業概要等について説明しました。

本学は、岐阜・東海地域に起業風土を根付かせ、地域経済の活性化や新産業の創出に寄与することを目的として、「岐阜大学発ベンチャーの創出・成長支援」と「起業家の育成教育」を推進しています。アントレプレナーシップ教育、大学発ベンチャー支援、成長支援という3つのステージの体系的な起業プログラムを整えており、さらに近年、学内外に起業家等が活動できる環境の整備も進めています。上原学術研究・産学官連携推進本部副部門長は、「この体系的な起業プログラムを経て設立された、大学の研究成果を活用した学生スタートアップをロールモデルとして、今後も更に社会的インパクトのある学生スタートアップを立ち上げていきたい。」と今後の展望を述べました。

自然科学技術研究科物質・ものづくり工学専攻2年 長曾我部 竣也さんは、所属する研究室の技術を活用し、令和3年9月22日付けで岐阜大学発ベンチャーFiberCraze株式会社を設立しました。FiberCraze株式会社では、本学の研究成果である繊維・フィルム加工技術を用いて素材に微少な"あな"を空け、そこに様々な機能（成分）を付与した製品を提供します。長曾我部さんは、起業に関する講義を受講したことで起業への関心が高まり、本学が提供している起業プログラムも積極的に活用しました。今後の目標については、「技術の特性を活かした機能性素材を様々な分野に展開することによって、産業や生活の発展を担う素材のインフラを目指していきたい。」と意気込みを語りました。

本学は今後も、多くの学生が起業の楽しさを知り、身近に感じることが出来るような環境を整えていくことで、地域経済の活性化に貢献出来るよう邁進していきます。



説明する森脇学長



説明する上原学術研究・産学官連携推進本部副部門長



説明する長曾我部さん



工学部 武野教授(右)と長曾我部さん

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/10/12	朝日	岐阜大研究室発 特許技術で起業 愛知・一宮出身「繊維産業に貢献したい」 大学院生・長曾我部さん 教授とベンチャー設立 ～ 自然科学技術研究科 武野明義教授, 大学院生 長曾我部竣也さん ～
2021/10/13	中日	虫寄せつけない繊維開発 岐阜大院生・長曾我部さん起業 ～ 自然科学技術研究科 武野明義 教授, 大学院生 長曾我部竣也さん ～
2021/11/7	岐阜	恩師の研究, 大学院生が事業化へ 独自繊維でベンチャー 靴下や防虫ネット, 開発中 ～ 大学院2年 長曾我部竣也さん, 工学部化学・生命工学科 武野明義教授 ～

医学教育開発研究センター (MEDC)

第81回医学教育セミナーとワークショップを開催

【概要】

岐阜大学医学教育開発研究センター（以下、「MEDC」とする。）は、令和4年1月22日（土）と23日（日）の2日間にわたり、第81回医学教育セミナーとワークショップをオンラインにて開催しました。公募を含めた計5つのワークショップならびにWebinarを実施し、講師を含む総勢120名の参加がありました。

ワークショップでは、「医療者教育の研究を立案してみよう」、「LGBTQ教育の設計・実践」、「Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会」など、多彩なテーマについて活発な論議がなされました。「Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会」のワークショップでは、オンライン教育、特に非同期教育において必須とされる教材を、簡単に作成することができる無料のオープンソースソフトウェア"Lumi Education"を使用し、各自で教材を作成した後、グループで共有して意見を出し合いました。コロナ禍のみならず、平時に戻った後も利用可能な教材作りに役立つ体験をすることが出来ました。

またWebinarでは、座長に自治医科大学の浅田義和先生を迎え、当センターの恒川幸司助教が「医学教育IR室奮闘記 ～データで医学教育の何を変えられたのか～」と題して、岐阜大学医学部IR室の活動を振り返りました。IRとは、"Institutional Research"の略称で、学内データを収集・分析・報告することにより学内の改善を促すものです。Volkweinが提唱する「IRの4つの機能」を紹介しながら、苦労話や分析結果から得たものについて語りました。聴講者からの質問は随時チャット形式で受け、座長及び聴講者との活発な論議もなされました。

MEDCでは、医学教育共同利用拠点として我が国の医療者教育の普及・開発・向上に寄与すべく、年3回「医学教育セミナーとワークショップ」を開催しており、次回第82回は5月19日（木）～21日（土）の3日間、第22回医学部・歯学部教務事務職員研修とオンラインにて併催予定です。



第81回 医学教育セミナーとワークショップ
2022年 1月22日(土)～23日(日)(Web開催)

Webinar 医学教育IR室奮闘記～データで医学教育の何を変えられたのか
講師：恒川幸司 (MEDC)

WS-1 医療者教育の研究を立案してみよう(第16回医学教育研究技法WS)
小講：医学部教育 東京医科歯科大学

WS-2 企業中！～医療者教育課程でLGBTQ教育を設計・実践しよう
小講：1)山崎浩一(東京医科大学) 豊田聡子(東京医科大学) 佐藤あゆみ(1)慶応大学、
2)山崎浩一(東京医科大学) 佐藤あゆみ(2)慶応大学、佐藤あゆみ(3)慶応大学

WS-3 患者安全拠点型医療者教育実践カンファレンス構築ワークショップ
小講：松本真由(全日本学生支援機構の学業支援部)、伊藤雅典(全日本学生支援機構)、
田中健一(岐阜大学)

WS-4 Web上で利用できるインタラクティブな教材の利用・作成体験会
小講：藤本真由(全日本学生支援機構)、八木重子(1)慶応大学、林野千穂(1)慶応大学

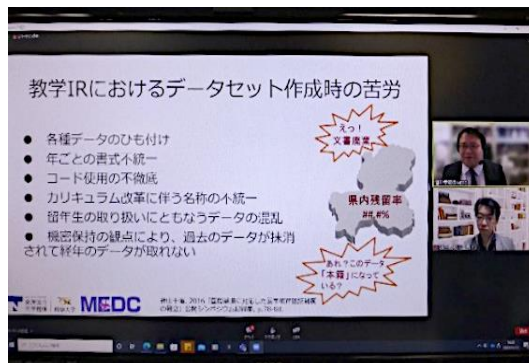
WS-5 第1回医療系IR友の会実践会～卒業データ取巻の実践と課題
小講：恒川幸司 (MEDC)、中村麗子(東京医科歯科大学)、高田あゆみ(1)慶応大学、
高田あゆみ(2)慶応大学、高田あゆみ(3)慶応大学、高田あゆみ(4)慶応大学、
高田あゆみ(5)慶応大学、高田あゆみ(6)慶応大学、高田あゆみ(7)慶応大学、
高田あゆみ(8)慶応大学、高田あゆみ(9)慶応大学、高田あゆみ(10)慶応大学

1月22日(土)			
13:00-14:00	WS-1	WS-2	WS-3
16:15-17:00	Webinar		
1月23日(日)			
9:00-12:00	WS-4	WS-5	

QRコード

第82回 岐阜 2022/5/19-21
第83回 関西医科大学 2022/5/26-28
第84回 岐阜(Web) 2023/1/19-21

MEDC 岐阜大学医学教育開発研究センター
TEL: 058-230-2470 FAX: 058-230-4466
〒500-8701 岐阜市大田町1-1-1 岐阜大学 医学部IR室



教学IRにおけるデータセット作成時の苦労

- 各種データのみも付け
- 年ごとの書式不統一
- コード使用の不徹底
- カリキュラム改革に伴う名称の不統一
- 留年生の取り扱いにともなうデータの混乱
- 機密保持の観点により、過去のデータが抹消されて近年のデータが取れない

「えっ! 文書廃棄」

県内残留率 28.4%

「あれこれのデータ「本音」になっていく」

MEDC 岐阜大学医学教育開発研究センター

Webinarの様子

スマート環境制御対応温室を設置

【概要】

応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センターにスマート環境制御対応温室（以下、スマート温室）が設置されました。

スマート温室は栽培面積216㎡、栽植本数360株の温室で、ICTを活用した環境制御機能を有しており、環境モニタリングすることで、ロックウール栽培による養液管理、自然換気の制御、温湿度管理、CO₂濃度管理、LEDのインターライティング管理を設定に合わせて自動制御します。応用生物科学部の学生は研究や実習を通してスマート温室について学び、活用していきます。

令和3年11月25日（木）には学内見学会を行い、担当の嶋津教授から説明がありました。出席者からは、名古屋大学との連携教育や先端農学研究への利用に期待する意見が出されました。

スマート温室は今後、岐阜大学の学生をはじめ、他大学の実習、近隣小・中学校、高校や、公開講座等にも活用される見込みです。



スマート温室の外観



温室内の生育状況



LEDによるインターライティング管理



収穫の様子

産学金官連携人材育成・定着プロジェクト 「成果発表会」を開催

【概要】

本学は、令和4年2月3日（木）に「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」の一環として、工学部の学生及び地域協学センターの講義を受講している学生等による成果発表会をオンラインにて開催しました。

「産学金官連携人材育成・定着プロジェクト」とは、岐阜県、産業界、大学、さらには金融機関が連携し、県内企業の高度技術者等の確保・育成及び定着を支援し、地域経済の活性化を図ることを目的とするものです。

本プロジェクトの一環として、工学部の学生は授業科目「機械工学創造演習」において、グループごとに県内企業による講義や実習に参加し、また、本学が推進する「次世代地域リーダー育成プログラム」の科目の一つで、地域協学センターが開講する「地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る」を受講した学生は、県内企業で活躍する若手社員の方々取材し、企業紹介のレポートを作成しました。

発表会では、産学金官連携人材育成・定着プロジェクト推進協議会会長である株式会社ナベヤの岡本代表取締役社長が、「中小企業の特徴として経営課題の解決が即実践に結び付くというダイナミズムを経験し、近い将来、学生諸君が岐阜の地で活躍することを期待します」と激励し、森脇学長からは「高度なアクティブラーニングの場のご提供に対し感謝するとともに、次年度以降も引き続いて大学内での本事業の展開を図っていきたい」と挨拶がありました。

続いて、全部で29の学生グループ等がこれまでの取り組みで得られた成果について発表を行い、学生からは「岐阜県内の企業活動を知るよい機会となった」などと肯定的な振り返りがありました。

本学は今後も、本プロジェクトを通して、岐阜県、産業界、金融機関等と連携し、地域・地元産業界の課題解決に向けて行動できる人材の育成、確保、定着を推進していきます。



成果を発表する学生

岐阜大学シンポジウム「インクルーシブ教育時代における学校管理職の育成」を開催

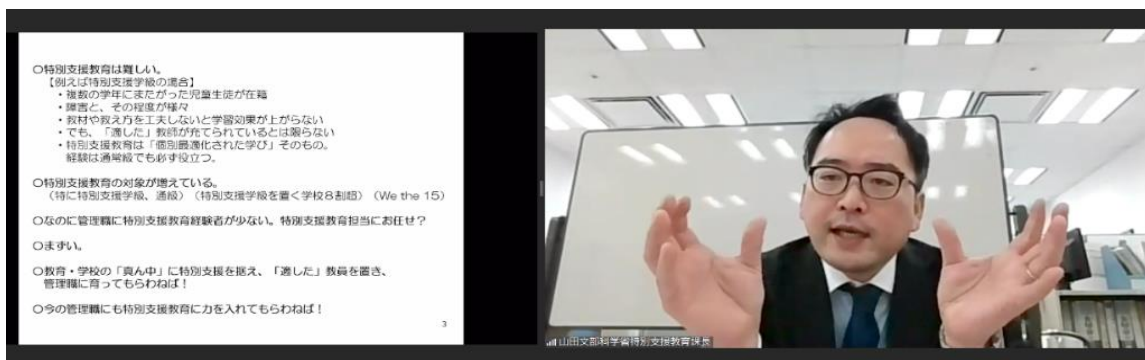
【概要】

令和4年2月7日（月）に、岐阜大学シンポジウム「インクルーシブ教育時代における学校管理職の育成」をオンラインにて開催しました。岐阜県内のみならず、全国の大学や学校、教育委員会、保護者等142名が参加しました。

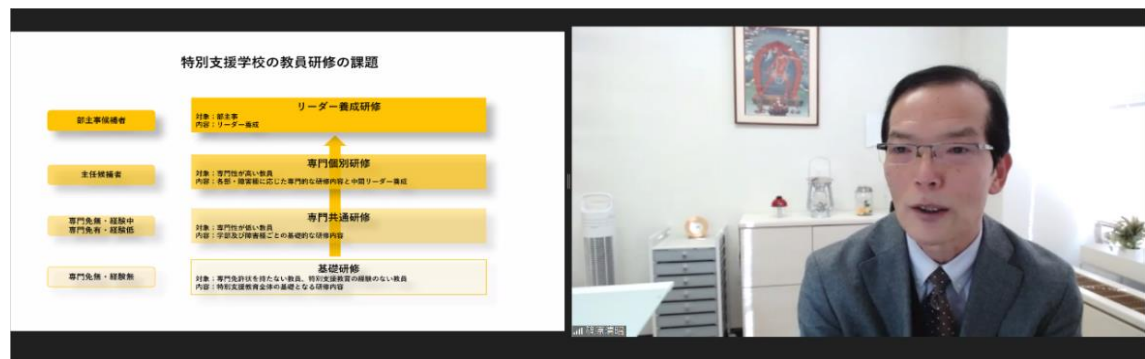
インクルーシブ教育システムの構築が求められている今日、特別支援教育の視点から学校管理職の育成を考えることが急務となっています。第一部では、文部科学省特別支援教育課の山田泰造 課長が「特別支援教育の立場からの管理職の育成について」と題して基調講演を行い、今日の特別支援教育政策や管理職の育成について説明しました。また、岐阜聖徳学園大学の篠原清昭 教授は、学校経営学の立場から山田課長と対話を行い、参加者はさらに学びを深めることが出来ました。

第二部の「令和3年度 NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業報告：特別支援学校の管理職になる前の学びを支えるオンライン機能開発研修」では、具体的な研修コンテンツを共有し、それらを踏まえた第三部の参加者交流では、これからの管理職育成に必要なことを話し合いました。本シンポジウムは、学校管理職の育成について特別支援教育の視点から学び、考え、これからの歩みを進めるための重要な機会となりました。

岐阜大学教職大学院は、来年度より教科教育を取り入れた新しい教職大学院となります。引き続き、皆様との交流を通じて、多様な子どもを包有する教育への充実発展に向けて努力していきます。



説明する文部科学省特別支援教育課 山田泰造 課長



説明する岐阜聖徳学園大学 篠原清昭 教授

将来ビジョン 「研究」

研 究

教育の基盤としての
質の高い研究を展開

- 生命科学／医薬獣／iCeMS研究拠点（生命の鎖統合研究センター）の充実
- 地方創生エネルギーシステム研究センターの形成
- Guコンポジット研究センターの拡充／地域連携スマート金型技術研究センターの拡充
- 水環境リーダー学位プログラム化
- 学術研究・産学官連携推進本部による支援体制の強化



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

産学連携教授・産学連携准教授の称号付与及び 産学連携重点研究室の授与式開催

【概要】

本学は、令和3年6月1日（火）、7月7日（水）に「産学連携教授・産学連携准教授の称号付与」及び「産学連携研究室の認定」の授与式を行いました。

今般、大学が持つシーズに対する企業からのニーズの高まりを受け、企業等からの大学への共同研究や受託研究の受入が年々増加しています。本学では、今年度から民間企業等から一定額以上の資金（共同研究・受託研究・受託事業）を受け入れた教員に特別な称号を付与することなどにより、企業等との連携を一層推進する目的で、本制度を開始しました。

授与式では、関係者の見守るなか、森脇学長から、次の受賞者に称号記及び認定書が授与されました。

- | | | | |
|------------|--------|---------|-----|
| ●産学連携教授 | 吉田 佳典 | 工学部 | 准教授 |
| ●産学連携教授 | 久武 信太郎 | 工学部 | 准教授 |
| ●産学連携准教授 | 落合 正樹 | 応用生物科学部 | 助教 |
| ●産学連携重点研究室 | 八嶋 厚 | 工学部 | 教授 |
| ●産学連携重点研究室 | 吉田 佳典 | 工学部 | 准教授 |

森脇学長は、「本学の新たな制度を活かして、一層の活躍を期待しています。」と激励の言葉を述べました。本学は、これらの産学連携を推進する制度により、今後も研究成果の社会還元を行っていきます。



森脇学長から認定書を授与される八嶋教授



集合写真
(左から) 王副学長、吉田准教授、八嶋教授、落合助教、森脇学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/6/3	岐阜	「産学連携教授」 岐阜大が新称号 准教授や講師，研究の励みに ～ 工学部 吉田佳典准教授，応用生物科学部 落合正樹 助教，工学部 八嶋厚 教授 ～
2021/6/4	中日	岐阜大、産学連携推進へ「称号」 ～ 工学部 吉田佳典准教授，応用生物科学部 落合正樹 助教，工学部 八嶋厚 教授 ～

応用生物科学部 山根京子准教授 「第12回辻静雄食文化賞」を受賞

【概要】

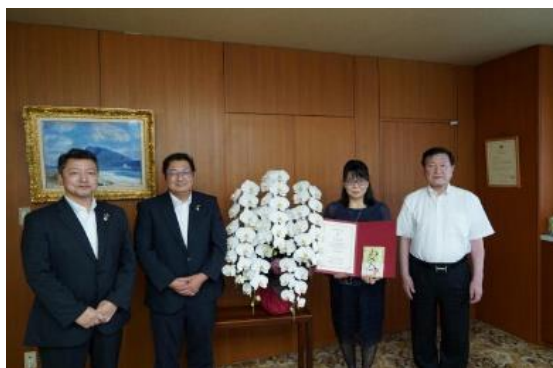
本学応用生物科学部 山根京子准教授が「第12回辻静雄食文化賞」を受賞しました。辻静雄食文化賞は、公益財団法人辻静雄食文化財団が我が国の食文化の幅広い領域に注目し、よりよい「食」を目指して目覚ましい活躍をし、新しい世界を築き上げた作品、もしくは個人・団体の活動を表彰するために創設された賞です。

今回の受賞は、山根准教授が昨年度出版した、「わさびの日本史」が評価されたものです。

令和3年7月5日（月）には学長へ受賞報告を行いました。山根准教授は「今後は「なぜわさびは辛いのか」など、さらにわさびの起源や進化に関する研究を進めたい」と目標を述べ、森脇学長は、「興味深い研究成果でした。これからも研究に邁進してほしい。」と称えました。



受賞の報告をする山根京子准教授（右）



集合写真
（左から）松田典明副学長、杉山誠副学長、
山根京子准教授、森脇久隆学長

【メディア掲載】

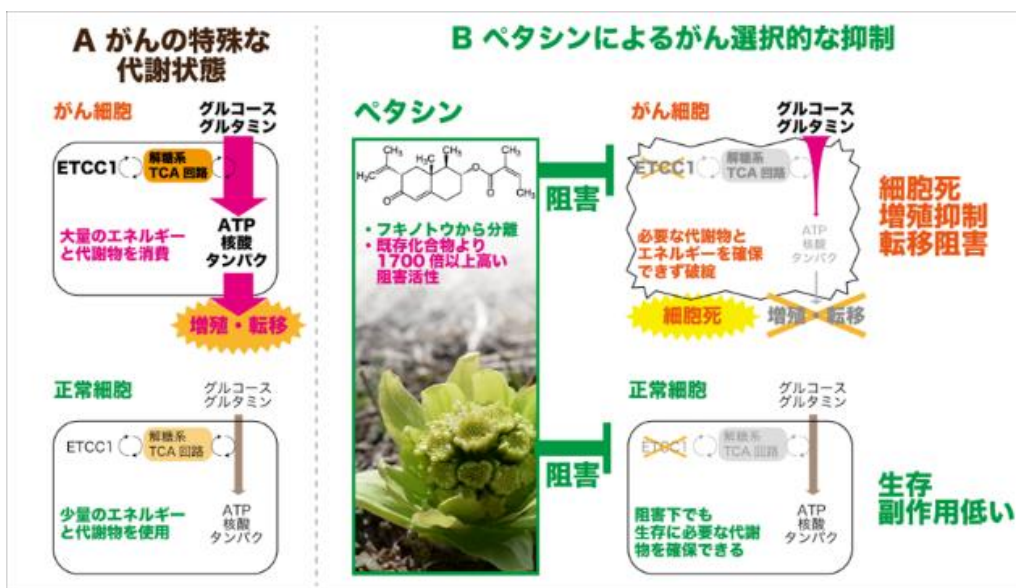
掲載日	新聞社名	内容
2021/7/6	岐阜	ワサビ本 第二弾に意欲 辻静雄食文化賞 山根岐阜大准教授が報告 ～ 応用生物科学部 山根京子 准教授、森脇久隆学長 ～
2021/7/16	朝日	江戸のワサビ 令和の「お宝」 三鷹で細々栽培 DNA鑑定で「希少種」 ルーツは岐阜？ ～ 応用生物科学部 山根京子 准教授 ～

日本原産フキノトウからがんの増殖・転移を強く抑制する物質を発見

【概要】

岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科 創薬科学専攻 平島一輝 特任助教、赤尾幸博 特任教授らの研究グループは、シーシーアイなどとの共同研究で、天ぷらなどの和食に使われる日本原産植物フキノトウに多く含まれるペタシンが、がんの増殖と転移を強く抑制することを発見しました。また、ペタシンはがん細胞の特異的なエネルギー代謝を阻害することで、正常組織への副作用を抑えつつ効果的に抗がん効果を発揮することを明らかにしました。本化合物を起点として一群の副作用の低い革新的な抗がん・転移阻害薬の開発が期待されます。

本研究成果は、2021年9月2日（木）2時（日本時間）にThe Journal of Clinical Investigation誌のオンライン版で発表されました。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/9/2	岐阜	フキノトウ「苦み」がん抑制 「ペタシン」高い効率で増殖・転移を阻害 ～ 連合創薬医療情報研究科 平島一輝 特任助教, 赤尾幸博 特任教授 ～
2021/9/18	中日	フキノトウ がん増殖抑制 治療薬開発に道 ～ 連合創薬医療情報研究科 平島一輝 特任助教, 赤尾幸博 特任教授 ～
2021/11/9	読売	フキノトウにがん抑制物質 ペタシン 岐阜大など研究 ～ 大学院連合創薬医療情報研究科 平島一輝 特任助教, 赤尾幸博 特任教授 ～

岐阜大学スマート金型開発事業シンポジウムを開催

【概要】

岐阜大学では、世界初となるスマート金型生産システムの構築を目指して、ものづくり企業との共同研究開発を平成30年にスタートしました。

令和3年9月22日に「新型コロナウイルス感染症」感染拡大の防止という観点からZOOMによるオンラインのみに変更して開催した本シンポジウムでは、これまでの研究成果を報告させていただくとともに、ものづくり分野の先進企業による招待講演を行い、製造業の会社経営者や社員ら約260人が聴講いたしました。

岐阜大学スマート金型開発事業シンポジウム
構築を目指して

令和3年 9/22(水) 10:00-16:50 (受付 9:30-)

入場無料 要事前申込み

スマート金型開発事業シンポジウム 申込み方法 9/15(水)まで

申込先: sumak21@gifu-u.ac.jp

申込期間: 9/15(水)まで

申込先: sumak21@gifu-u.ac.jp

申込先: sumak21@gifu-u.ac.jp

岐阜大学スマート金型開発事業シンポジウム プログラム 入場無料 要事前申込み

令和3年 9/22(水) 10:00-16:50 (受付 9:30-)

時間	内容	講演者
10:00-10:10	開 幕 (受付9:30-)	東海国立大学機構 岐阜大学 学長 森脇久隆
10:10-10:30	岐阜大学スマート金型開発事業の概要 開発の経緯、最新成果、ロードマップ、最新研究について報告する。	東海国立大学機構 岐阜大学 三田村一広
10:30-11:30	【招待講演】「超多量少量生産を支えるスマートファクトリーの構築及びプレス金型のリードタイム短縮への取組み」	オプテック株式会社 ソリューションシステム技術部 部長 金本元吉
11:30-11:50	板金プレスにおけるスマート生産システム開発 板金プレス工場におけるスマート生産システムの開発 デジタルファブリケーションを実現するためのシステム構築する。	東海国立大学機構 岐阜大学 吉田雄兵 太平洋工業株式会社 取締役兼 株式会社アマダシステムズ 山本一
休 憩		
13:10-13:30	冷夏製品の色ずれ不良の予測と改善 本製品の色ずれ不良の原因を特定して改善するための構築と その成果を報告する。	東海国立大学機構 岐阜大学 山本一広
13:30-13:50	射出成形に関するドメイン知識に基づいた機械学習による成形不良の予測 射出成形に関するドメイン知識に基づいた機械学習による成形不良の予測 成形不良を予測するシステムを報告する。	東海国立大学機構 岐阜大学 山本一広
13:50-14:10	良品しかできない成形システムの開発 良品しかできない成形システムの開発 良品しかできない成形システムの開発。	株式会社岐阜多田機械 多田 隆生
休 憩		
14:25-14:45	IoT最新グループ活動報告 最新グループ活動報告	東海国立大学機構 岐阜大学 山本一広
14:45-15:05	センシンググループの活動報告 センシンググループの活動報告	東海国立大学機構 岐阜大学 三田村一広
15:05-15:25	総合質疑応答	
休 憩		
15:40-16:40	【招待講演】「自動車に求められる実用～Game Changerとなる未来技術～ 自動車に求められる実用～Game Changerとなる未来技術～ 自動車に求められる実用～Game Changerとなる未来技術～」	日産自動車株式会社 パーソナルモビリティ開発局開発本部 エキスパートリーダー 宇野直也(技術員) 藤田 健之
16:40-16:50	結 語	東海国立大学機構 岐阜大学 吉田 雄生

シンポジウムに関するお問合せ
sumak21@gifu-u.ac.jp (TEL:058-293-2925)

新型コロナウイルス感染防止対策のお願い

バスでのアクセス

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/9/24	岐阜	岐阜大、地域に活力 スマート金型開発シンポ 生産システム成果発表 ～森脇久隆学長～

岐阜県気候変動適応センターが共同研究成果 記者説明会を開催

【概要】

岐阜県と岐阜大学が共同で設置・運営している「岐阜県気候変動適応センター」は令和2年度に実施した4題の共同研究成果について、令和3年10月8日（金）に県政記者クラブで記者説明を行いました。

共同研究成果

- (1)温暖化に伴うカキの影響評価と転換品目を含めた栽培適地マップの作成
- (2)森林・中山間農業における雪害・風害リスクの将来予測
- (3)洪水・土砂災害の曝露人口年齢分布の経年変化と地域の防災戦略に関する研究
- (4)将来気候における岐阜県の台風や豪雨の温暖化影響評価

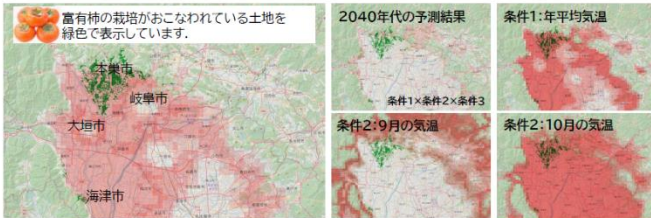
共同研究成果は、岐阜県ホームページにて公表されたほか、記者説明の様態を収めた動画を、岐阜大学地域環境変動適応研究センターyoutubeチャンネルにてご覧いただけます。

岐阜県気候変動適応センター共同研究 成果の概要

〔2020年度共同研究〕

温暖化が富有柿の品質に与える影響と、柿にかわりうる転換品目について検討

- 現在、柿の栽培が盛んな地域は、柿の栽培に適した気候条件と土壌の条件がそろっていたことが確かめられました。
- 温暖化の進行によって、とくに9月の高温が柿の品質を低下させる要因になることが予想されました。具体的には、柿の色づきが悪くなる着色不良が増える可能性が高いことが分かりました。
- 柿にかわる品目として、レモンやグレープフルーツは温暖化の程度が高位であれば将来的に栽培適地となり得ることが分かりました。（現時点では、気温のみを対象とした評価）



富有柿の栽培適地マップ
過去の気象条件で、柿の栽培に適した土地を赤く表示。

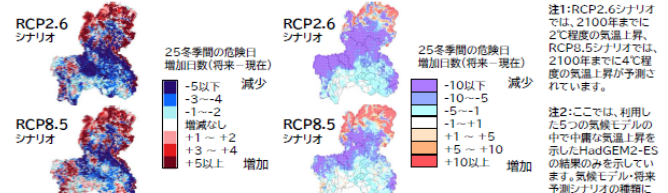
担当者：山田利夫・原田守啓(岐阜大学)／岐阜県

岐阜県気候変動適応センター共同研究 成果の概要

〔2020年度共同研究〕

森林・中山間農業における雪害危険度の将来変化を予測

- 森林冠雪害については、いずれの将来予測シナリオ(RCP2.6、RCP8.5^{注1})でも、県北部で危険日数が増加し、県中南部の多くの地域で冠雪危険日数が減少する傾向にありました。
- 農地雪害(ビニールハウスの倒壊)については、日積雪量が農業用ハウスの限界荷重を上回る危険日数を判定しました。いずれの将来予測シナリオでも、県北部で農地雪害の危険性が増加し、県中南部域では農地雪害危険日数が減少する傾向にありました。
- 将来的に雪害危険度が高い地域においては、森林の適切な密度管理、農地のハウス強化などの事前対策が望めます。



森林冠雪害危険度の危険日増加日数
気候モデル(HadGEM2-ES)による結果^{注2}

担当者：斎藤球(岐阜大学)／久田義純(岐阜県森林研究所)・矢嶋謙二(岐阜県中山間農業研究所)

注1-RCP2.6シナリオでは、2100年までに2℃程度の気温上昇、RCP8.5シナリオでは、2100年までに4℃程度の気温上昇が予測されています。

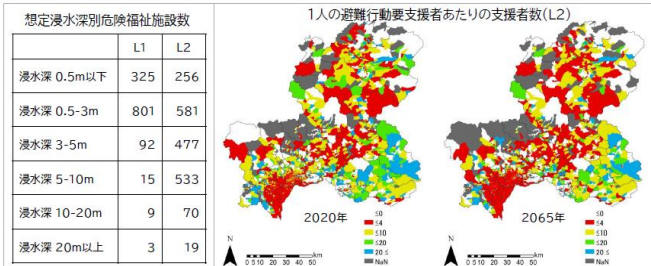
注2-ここでは、利用した5つの気候モデルの中で中層な気温上昇を示したHadGEM2-ESの結果のみを示しています。気候モデル・将来予測シナリオの種類によって推定結果の違いがありますので、必ず報告書をご確認ください。

岐阜県気候変動適応センター共同研究 成果の概要

〔2020年度共同研究〕

洪水・土砂災害で被災する危険性の高い場所に住民の避難可能性と地域の防災戦略

- 浸水・土砂災害の危険区域内にどの程度の福祉施設が存在するのかを明らかにし、市町村別に集計しました。あわせて、市町村ごとに、どの施設が危険区域内にあるかを示しました。
- 国勢調査の基本単位区(おむね自治会の拡がり)に相当レベルでの、浸水・土砂災害の危険地域に住む人の数を2020年と2065年の2時点で見積りました。
- 年齢区分だけでなく、要介護認定者、障害者などの数を考慮することで、危険区域に居住する、避難行動要支援者数と、それに対して避難行動を支援出来る人がどの程度いるのかを示しました。



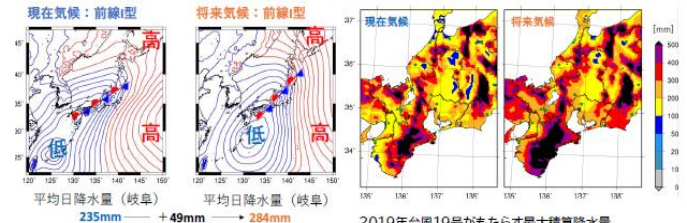
担当者：小山真紀(岐阜大学)／岐阜県危機管理防災課

岐阜県気候変動適応センター共同研究 成果の概要

〔2020年度共同研究〕

温暖化により岐阜県の豪雨や台風がどう変化するか？

- 岐阜県の100年に1回規模の大雨とそのときの天気図が、温暖化の進行によりどう変化するかを分析しました。岐阜県に前線がかり、かつ、南西側に低気圧(台風)が存在するような気圧配置時に岐阜県の大雨が特に強まりやすいことが明らかとなりました。
- 関東地方に甚大な被害をもたらした2019年台風19号が、もしこの地域に最悪の進路で接近した場合にどのような大雨になるのか分析しました。その大雨の規模は、伊勢湾台風を上回り、さらに温暖化の影響を考慮することで、木曾三川の水害リスクは一層増すことが明らかとなりました。



2019年台風19号がもたらす最大積算降水量
将来気候では、木曾三川の上流域で+50～150mmの積算降水量の増加し、水害リスクが増大します。

担当者：吉野純(岐阜大学)／岐阜県危機管理防災課

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/10/9	岐阜	20年後「富有柿」 着色不良の危機 県と岐阜大、予兆確認 温暖化影響，農家"真っ青..." ～ 応用生物科学部 山田邦夫 教授，流域圏科学研究センター 原田森啓 准教授 ～
2021/10/17	中日	温暖化 富有柿の色に影響？ 県気候変動適応センターまとめ ～ 応用生物科学部 山田邦夫 教授 ～

放送日等	番組名	内容
2021/11/16	中京テレビ 15:48～18:59 「キャッチ！」	岐阜県と岐阜大学が共同で設置・運営している岐阜県気候変動適応センターの共同研究成果「温暖化に伴うカキの影響評価と転換品目を含めた栽培適地マップの作成」の紹介

がんの悪性化に関わる糖鎖合成酵素GnT-Vは 糖鎖をつけるタンパク質を選ぶ ～ GnT-Vの中のNドメインが鍵 ～

【概要】

岐阜大学糖鎖生命コア研究所 (iGCORE) の木塚康彦准教授、自然科学技術研究科1年の大須賀玲奈さんらの研究グループは、大阪大学や広島大学などとの共同研究で、がんの悪性化に関わる糖鎖合成酵素GnT-V*1が、タンパク質を選んで糖鎖*2をつけることを発見しました。さらに、GnT-Vの一部であるNドメイン*3と呼ばれる領域が、標的となるタンパク質を選ぶ上で不可欠であることを明らかにしました。本研究は、特定の糖鎖がどのようにして特定のタンパク質につくのか、という疑問の解明に向けて重要な知見を与えると同時に、糖鎖に関わるがんの悪性化の仕組みの解明にも役立つことが期待されます。

本研究成果は、2022年1月30日(日)(日本時間)にThe Journal of Biological Chemistry誌のオンライン版で発表されました。

〔発表のポイント〕

●GnT-Vは、細胞内で特定のタンパク質上の糖鎖に作用し、糖鎖を枝分かれさせる酵素である。

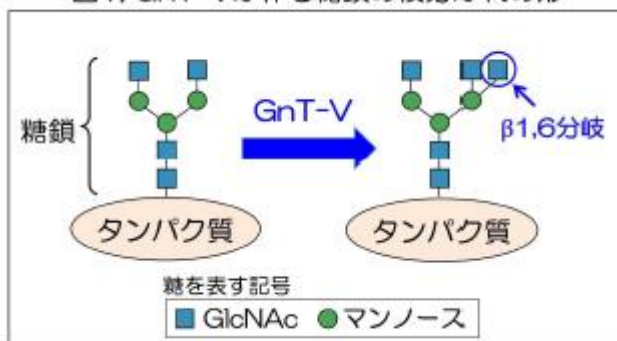
●これまでに、GnT-Vが作る糖鎖の枝分かれ構造は、がんの増殖・転移を促進させることがわかっている。

●しかし、GnT-Vがどのように特定のタンパク質のみに働くのかはわかっていなかった。

●GnT-V内に含まれる機能不明のNドメイン領域に注目した結果、GnT-Vは、Nドメインを介して標的となるタンパク質を直接選ぶことを明らかにした。

●本研究によって、糖鎖が細胞内でタンパク質ごとに異なる形で作られる仕組みや、糖鎖に関わるがんの病態メカニズムの理解の進展が期待できる。

図1. GnT-Vが作る糖鎖の枝分かれの形



〔用語解説〕

*1 GnT-V: 糖鎖を合成する酵素(糖転移酵素)の一つで、細胞の中に存在し、β1,6分岐という糖鎖の枝分かれ構造を作る。

*2 糖鎖: グルコース(ブドウ糖)などの糖が鎖状につながった物質。遊離の状態が存在するものもあれば、タンパク質や脂質に結合した状態のものもある。デンプン、グリコーゲンなどの多糖は数多くの糖がつながり、糖鎖だけで遊離の状態が存在する。一方タンパク質に結合したものは、数個から20個程度の糖がつながったものが多い。

*3 Nドメイン: ドメインとは、タンパク質の構造の一部のうち、他の部分とは独立して折り畳まれた領域のこと。一般にタンパク質は複数のドメインからなる。GnT-VのNドメインは、触媒領域のN末端側に存在するドメインである。

第6回流域圏保全研究推進セミナーを開催

【概要】

岐阜大学流域圏科学研究センターは、令和4年3月2日（水）に第6回流域圏保全研究推進セミナーを開催しました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策のためオンラインで開催し、ほとんどの発表者・参加者はリモートでの参加となりましたが、学外からの参加者26名を含む計64名（内、留学生4名）が参加しました。

当センターでは、流域圏の現状診断と管理支援および変動予測に基づいて、持続的な自然資源の利用を実現する「流域圏科学」を国内外の大学や研究機関、観測・研究ネットワークの支持を受けながら推進してきました。本セミナーは、個々の研究および共同研究の最新の成果を共有し、「流域圏科学」の今後の発展について議論することを目的として開催しました。

当日は、森脇久隆学長と李富生センター長の挨拶で開会し、続いて本年度で退職される津田智准教授が「タネ 火種 めしのたね」と題して最終講義を行いました。次に、当センターの森林機能研究部門、水物質動態研究部門、地域協働推進室の研究成果報告、および当センターが支援している若手研究者（博士課程学生、研究員）3名の成果報告を行いました。

また、長年にわたって高山試験地を利用した共同研究を実施されてきた産業技術総合研究所の村山昌平氏にもご講演いただき、その後、共同研究課題3件の今年度の成果発表がありました。そして、高山試験地、微生物分析室、水質分析室、岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム（BWEL）の活動報告を行い、王志剛副学長の挨拶により閉会しました。

当センターでは、今後も流域圏保全研究推進セミナーを毎年開催することにより、「流域圏科学」の体系化を図るとともに、環境問題への適応と解決に取り組む実践的な「流域圏保全学」の醸成を推進していきます。



津田智准教授による最終講義の様子



花束を贈呈された津田智准教授

将来ビジョン 「国際化」



- グローバル人材養成プログラムの整備充実
(南アジア・ASEANを中心とした地域における海外
オフィス・共同実験室の展開)
- 日本人学生と留学生の混在型教育の充実
- 海外協定大学とのJoint Degreeプログラム開始
- 多文化共生型による国際教養コースの設置
- 教員海外研修、事務職員海外実務研修の強化
- 留学生の就学・就職支援（インターンシップ）強化（東海コ
ンソーシアム化）
- 留学生ネットワークの整備
- 諸団体、他大学とのグローバル事業共同展開



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

杉原千畝記念館 館長特別講演会 「在カウナス領事代理 杉原千畝に学ぶ」を開催

【概要】

令和3年5月31日(月)、本学にて、杉原千畝記念館 国枝大索館長をお招きし、特別講演会「杉原千畝に学ぶ」を開催しました。本講演会は、岐阜大学全学共通教育科目「異文化論（リトアニア学）」に関連して開催されたもので、学生が本科目を対面で受講している様子をZoom Webinarによりリアルタイムで配信しました。

講演会は、植松美彦岐阜大学グローバル推進機構長による挨拶及び毛利哲也工学部准教授によるリトアニア学の講義についての概要説明の後、国枝館長による講演があり、岐阜県八百津町出身で、在リトアニア・カウナス領事代理を務めた杉原千畝氏について、氏の領事代理在任時のユダヤ人を救うための行動を、当時の世界情勢と絡め詳細にご説明いただきました。

講演会には、受講生40名、オンライン参加者49名の計89名が参加し、熱心に講演を聞き入りました。受講学生からは、当時のリトアニアの政治的分断を初めて知った、杉原氏の勇気と行動力にあふれた人道支援に改めて感銘を受けた、といった感想が聞かれました。

本学は今後もリトアニアについて学ぶ機会を設け、同国への理解を深めていきます。



オンライン配信の様子



講演会場の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/6/1	岐阜	命のビザ 広がり知って「千畝氏以外の領事も尽力」 岐阜大で記念館館長が講演 ～ 工学部1年 祖父江祐太さん ～
2021/6/1	中日	「命のビザ」千畝の緊急措置 当時の世界情勢踏まえ語る 岐阜大で記念館・国枝館長 ～ 工学部1年 祖父江祐太さん ～

2021サマースクール（受入）をオンラインで開講

【概要】

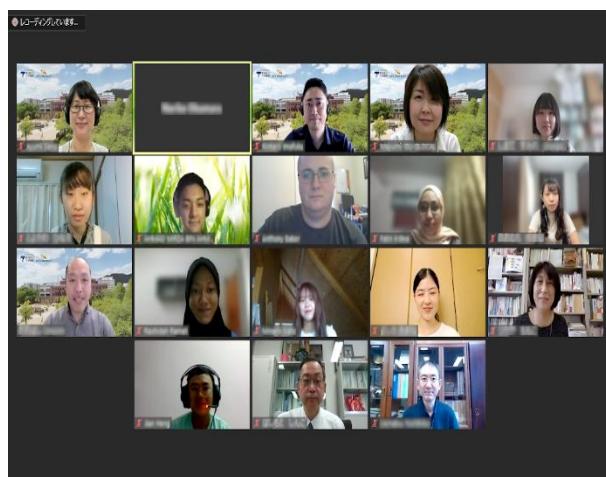
本学グローバル推進機構は、令和3年6月23日（水）から、サマースクール（受入）をオンラインで開講しました。ノーザンケンタッキー大学（アメリカ）、マレーシア国民大学（マレーシア）から合計5名の学生が参加し、これから7月7日（水）までの2週間、オンラインで日本語学習に励みます。

サマースクール（受入）は、本学の学術交流協定大学の学生を対象に毎年開講している留学生短期受入プログラムです。昨年度はCOVID-19の影響で中止となりましたが、今年度は通算33回目にして初めてのオンライン開催となります。サマースクール参加学生らは、日本語学習に加え、本学のボランティア学生と文化体験企画等で交流する中で、実際の日本語コミュニケーションにもチャレンジします。また、郡上八幡国際友好協会の協力のもと、郡上市立相生小学校の児童との交流や、郡上市の伝統的な街並みや郡上踊り、工芸品等を映像で紹介する伝統文化体験の時間も設けられています。

6月23日（水）は、開講式とガイダンス、4学部から参加したアシスタント学生による大学紹介を行いました。サマースクール参加学生らは、初日ならではの緊張感はあるものの、本学学生と交流する中で少しずつ表情が柔らかくなり、英語等を交えつつ積極的に日本語での会話に励みました。2週間という例年より短い期間の実施にはなりますが、実際の距離は遠く離れていても、オンラインでの交流を重ねる中で学生達の心の距離がより縮まることを期待しています。



ガイダンスの様子



開講式での記念撮影

ジョイント・ディグリープログラム 国際連携食品科学技術専攻（修士課程）の 第1期生（インド工科大学グワハティ校入学）が修了

【概要】

2021年7月16日（金）、岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻（修士課程）のインド工科大学グワハティ校を主大学として入学した第1期生が国際共同学位を取得しました。

本専攻は、本学において2019年度にインド工科大学グワハティ校（IITG）及びマレーシア国民大学と共同で開設した4つの国際連携専攻(ジョイント・ディグリープログラム)の1つです。

学位伝達式はオンラインで執り行われ、本専攻1期生となるIITG入学の4名の修了生に学位記が授与されました。本学からは森脇久隆学長が祝辞のビデオメッセージを寄せられ、修了生たちが学位取得までに積み重ねてきた努力への賞賛とともに、将来の日印産業振興における修了生への期待を述べられました。

また、本卒業式の様子は現地新聞やオンラインニュースに多数取り上げられ、インドにおける本専攻の注目度の高さが窺えます。

Name	Discipline	Program	Partner University
Ms. Thongam Debika Devi	Energy	General Exchange Programme (GESR)	Kyoto University, Japan
Mr. Jishnu Choudhury	Civil	Summer Internship	Ecole Centrale de Nantes, France
Mr. Mayank Sharma	Chemical	International Joint Master Degree in Food Science & Technology	Gifu University, Japan
Mr. Sanjay Raghuvanshi	Chemical	International Joint Master Degree in Food Science & Technology	Gifu University, Japan
Mr. Rupesh Kumar	Chemical	International Joint Master Degree in Food Science & Technology	Gifu University, Japan
Ms. Priyanka Vilas Korgaonkar	Chemical	International Joint Master Degree in Food Science & Technology	Gifu University, Japan
Mr. Vinod Gajmer	Civil	Summer Internship	Carema Mediterranean, Aix-en-Provence, France

修了生4名の氏名が掲載されたスクリーン



森脇学長の祝辞

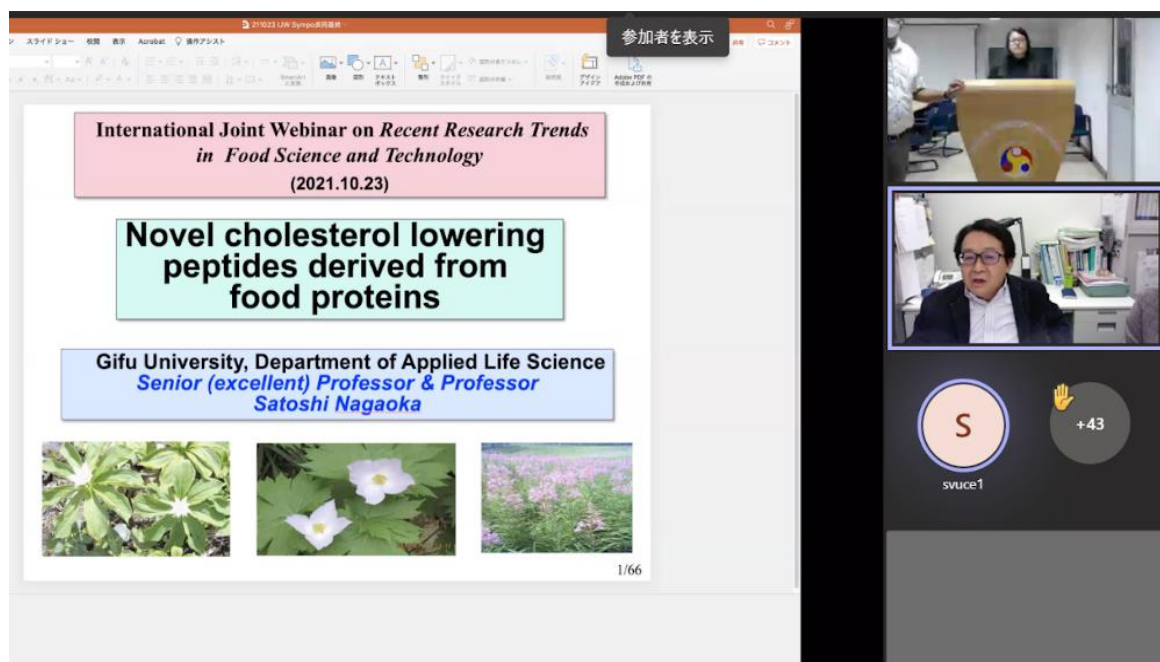
インド工科大学グワハティ校と合同ウェビナーを開催

【概要】

令和3年10月23日（土）、本学はインド工科大学グワハティ校（IITG）と合同ウェビナー「Recent Research Trends in Food Science and Technology（食品科学技術研究の新潮流）」を開催しました。IITGは、本学の工学研究科（博士課程）、農学研究科（博士課程）ならびに自然科学技術研究科（修士課程）と国際共同学位プログラム（ジョイント・ディグリープログラム、詳細は [こちら](#)）を設置している海外協定大学の一つです。同プログラムとの相乗効果も念頭に開催された本ウェビナーは昨年に続き2回目となり、国連食糧農業機関の創設を記念し定められた世界食糧デー（10月16日）に合わせて行われました。

ウェビナーでは6名の講演者によって食品科学技術における学術的および応用的な最新動向が紹介されました。本学からは、長岡利教授（応用生物科学部）が食品由来の新規コレステロール低下ペプチドに関する研究成果を、西津貴久教授（応用生物科学部）がSDGsの目標の1つである「飢餓をゼロに」への食品工学の役割と関連する研究成果について講演しました。他の講演者からは、環境に配慮した食品包装や代替肉の最前線などが紹介されました。ウェビナーには、日印の教員やジョイント・ディグリープログラム学生など約40名が参加し、啓発的な講演者の発表に対し活発な質疑が行われました。

本学は今後もジョイント・ディグリープログラムを基盤としたIITGとの交流を推進していきます。



講演の様子（長岡教授）

広西大学との農学系合同研究シンポジウムを オンラインで開催

【概要】

令和3年10月23日（土）、中国の広西大学との農学系合同研究シンポジウム「Guangxi University - Gifu University The 2nd Joint Research Symposium」をオンラインで開催しました。

本シンポジウムは、2019年度に広西大学農学院で開催された第1回に続き、両大学の学術交流を促進することを目指しています。今回は両大学から計6名の教員が研究発表を行い、留学説明会や意見交換の機会も設けられました。

本学からは、光永徹 応用生物科学部長による開会挨拶に続き、3名の教員（今村彰宏 准教授、山田邦夫 教授、大西健夫 准教授 ※発表順）が自身の研究内容について発表しました。また、研究発表教員の他にも6名の教員と5名の学生がオンライン及び配信会場（応用生物科学部101多目的ホール）から対面で参加し、広西大学の配信会場には200名を超える参加者が集まりました。研究発表後は、修士ダブルディグリープログラム（DDP）の説明及び同プログラムで本学へ留学中の学生1名による報告を行いました。広西大学の学生から質問やコメントもあり、留学への興味が伺えました。

今回は海外渡航が困難な状況下のため、オンラインでの開催となりましたが、両大学の今後の研究・学生交流の可能性を確認する充実した機会となりました。今回の開催に協力いただいた広西大学関係者へ感謝申し上げます。今後もこうした取り組みを継続して実施していきます。



応用生物科学部長による開会挨拶



応用生物科学部教員による研究報告



会場の様子（画面上）



会場の様子（広西大学）

2021年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム 岐阜地区ワークショップを開催

【概要】

令和3年10月27日（水）、岐阜大学全学共通教育講義棟において、2021年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催しました。

本ワークショップは、愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画している岐阜県内4機関（本学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構（ジェトロ）岐阜貿易情報センター）の共催により例年開催しており、今年度で第4回目の実施となりました。

2部構成の第1部は、矢橋ホールディングス株式会社 Nguyen Thi Diep氏によるグローバル人材育成に関するセミナー、太平洋工業株式会社に就職した元留学生 申 鑫 氏から就職体験談のビデオメッセージを通じ、キャリアイメージを鮮明にしました。

続く第2部は、留学生が参加企業各社へ質問を投げかけて交流を図りました。留学生は、本ワークショップに向けて、事前に企業理念や事業内容について知識を深めており、今後の海外展開の状況、社内の教育システムの状況及び外国人の採用実績などの質疑応答を通じ、交流を行いました。

今年度もコロナ禍での開催となったことから、感染対策に留意して小規模での開催となりましたが、参加した留学生は、対面実施により様々な企業と交流できたこと、参加企業への関心が深まったこと、今後の就職活動に役立つ等、本ワークショップの満足度が高く、また、企業からは、企業に対して一生懸命話されている姿に感心した、もっと長く交流の時間を確保いただきたい等の意見が寄せられ、有意義なワークショップとなりました。



第1部 セミナーの様子



第2部 留学生と参加企業との交流の様子

連合農学研究科が「The 9th UGSAS-GU Symposium & Roundtable 2021」を開催

【概要】

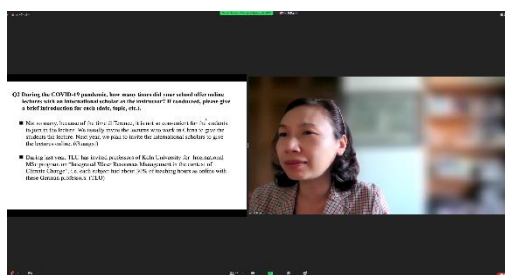
岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）は、令和3年11月10日（水）に南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（日本を含む南部アジア地域9カ国20大学）（以下、IC-GU12という）による「The 9th IC-GU12 Roundtable Meeting」（第9回農学系博士教育国際連携円卓会議）（以下、ラウンドテーブルという）を、10日（水）・11日（木）に海外のアカデミアで活躍する本研究科修了生の若手研究者を中心とした生物・農学系シンポジウム「The 9th UGSAS-GU International Symposium on a Recent Progress in Forest Ecology and Management 2021」（以下、シンポジウムという）を本学連合農学大学院棟およびWeb会議のハイブリッドで開催しました。

10日のラウンドテーブルでは、加盟校のうち16大学のリエゾン教員等27名の出席のもと、各大学のオンライン講義の開催状況や事例、オンラインによる海外教員との教育連携についての総合討論が行われました。

10・11日のシンポジウムでは、本学連合大学院棟およびWeb会議のハイブリッド形式で、森林生態学と管理における最新の状況をテーマに花岡創森林研究・整備機構森林総合研究所材木育種センター北海道育種場育種課育種研究室長をはじめ国内外の研究者4名の基調講演及び研究者15名の研究発表が行われ、より深い研究討論を行いました。

11日午後から本学の流域水環境リーダー育成プログラムと共催にて、学生21名によるオンラインポスターセッションが行われ、優秀発表学生5名にポスター賞が授与されました。

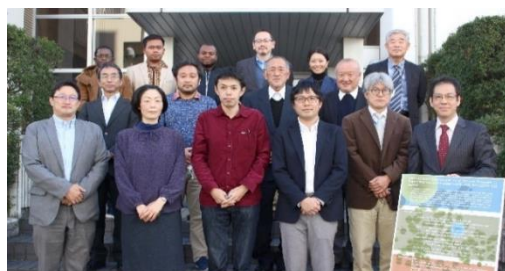
シンポジウムでは最新の研究事情に触れることができ、またラウンドテーブルでは各大学の教育に関わる問題の解決のヒントを得ることができ、大変有意義な会議となりました。



ラウンドテーブルの様子



シンポジウムでの花岡講師（森林研究・整備機構）の基調講演



シンポジウム参加者（岐阜大学会場）
集合写真



ポスターセッション受賞者（岐阜大学会場）
集合写真

岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2021を開催

【概要】

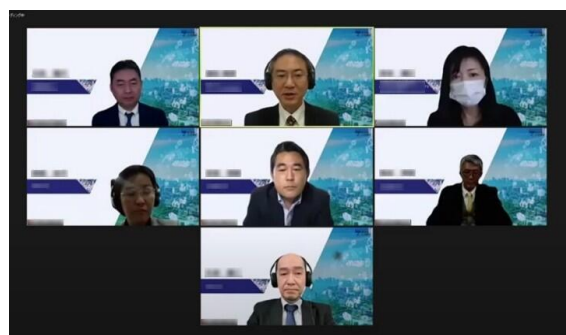
令和3年12月9日（木）～10日（金），オンライン（Zoom）及び一部対面にて，岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2021を開催しました。本年度で3回目となる本シンポジウムは，東海国立大学機構JDPシンポジウム（以下，THERS JDPシンポジウム）を東海国立大学機構が，学術セッション，産官学金連携セッションを岐阜大学グローバル推進機構が主催で開催しました。

松尾機構長からの開会挨拶の後，「ニューノーマル時代のジョイント・ディグリー～教育研究の国際化と地方創生～」をテーマとしたTHERS JDPシンポジウムでは，岸本文部科学省高等教育局高等教育国際戦略プロジェクトチームリーダーによる「ニューノーマル時代の国際教育交流」と題した基調講演が行われ，ジョイント・ディグリープログラム（以下，JDPという）のメリットと課題，今後の方向性等が，具体的事例と共に伝えられました。

講演後，植松岐阜大学グローバル推進機構長を座長に，岸本氏，一般社団法人中部経済連合会，立命館大学，名古屋大学及び岐阜大学とで，JDPが進める人材育成について，活発な意見交換がなされました。閉会にあたり森脇大学総括理事・副機構長から，JDPを含む国際連携教育への社会からの期待は高く，今後も関係機関との情報交換を密にするとともに，日本，ひいては世界の発展に寄与していきたい，また，全国大学JDP協議会は不可欠であり，広く参画をお願いしたい旨挨拶がありました。

学術セッションでは，「持続可能な地域開発；SDGsとその先に向けて」をテーマに，地域がそれぞれ持つ構想，地域開発計画や地域産業による環境に配慮したグリーンテクノロジーの事例などを共有し，参加者による意見交換が行われました。

産官学金連携セッションでは，「国際連携ジョイント・ディグリーを基軸とする地方創生」をテーマに，東海地域とJDP連携先の北東インド及びマレーシアを結ぶ地域創生及びSDGsとカーボンニュートラルに資する竹資源について，国内の産業界・金融関係者，行政関係者，大学関係者の間でパネルディスカッションが行われました。また，ブース展示では，東海地域の17の企業・機関が本学学生を対象に自社・機関の紹介を行うと共に，企業間での交流を深めました。



THERS JDPシンポジウムディスカッションの参加者



産官学金連携セッションブース展示の様子

将来ビジョン 「社会貢献」

社会貢献

地域社会の
活性化に貢献

- 岐阜県との連携による教育研究の推進と地域貢献（防災・減災センター事業の推進、岐阜県中央家畜保健衛生所・食品科学研究所のキャンパス内移転、ぎふ地域学校協働活動センターの設置、航空宇宙生産技術開発センターの立上げ）
- COC事業とCOC+事業の推進（地域志向人材の育成・認証）
- 産官学連携事業による地域産業界への貢献を推進（東海（中部）コンソーシアム化、産学金官プロジェクト）
- ダイバーシティ戦略の県内展開



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

岐阜大に最高評価 文部科学省「拠点大学による地方創生推進事業」

【概要】

本学は、令和3年4月1日（木）に令和3年度第1回学長記者会見を実施し、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）委員会による最終評価：最高の「S」」について説明しました。

地域活性化の拠点となる大学の形成を目的としたCOC事業、及び、それを引き継いだ、複数大学等で協働して地域が求める人材を養成し、その人材を地域に定着させるような大学の取組みを支援するCOC+事業において、3度の評価全てで最高の「S」評価を獲得しました。3度の評価において全て「S」を獲得したのは、全国で本学のみとなります。

取組みの核となる「次世代地域リーダー育成プログラム」は、「地域を知り」「地域の課題を見つけ」「地域の課題解決に向けて行動する」能力を備えたグローバルな人材を育成することを目的としており、全学部生に向けて本プログラムの受講を推進しています。なお、本プログラムは、地域リーダーコース・産業リーダーコース・教育リーダーコースの3つのコースで構成されており、他大学や自治体、企業等と協働して取組みを進めていることも大きな特徴の1つとなっています。

また、「ぎふフューチャーセンター」と呼ばれる、学生を含めた多様な人々が地域の課題解決に向けた対話を行う場の創出や、複数の学問の協働によって地域の課題解決を図る「地域志向学」の推進などにも力を入れています。

今後は岐阜県を含めた東海地域に範囲を広げながら、地域創生SDGsの推進拠点として、「次世代地域リーダー育成プログラム」内に新たに環境リーダーコースを設置する等、今までに取り組んできたことを更に発展させながら、東海地域全体の様々なニーズに応えるプラットフォームとして邁進していきます。



説明する森脇学長



説明する益川地域協学センター長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/4/2	岐阜	地方創生推進カリキュラム 岐阜大「最高評価」 文科省事業 ～ 地域協学センター 益川浩一センター長 ～
2021/4/6	中日	岐阜大に最高評価 文科省の「拠点大学による地方創生推進事業」 森脇学長「人材定着に貢献」 ～ 森脇久隆 学長, 地域協学センター 益川浩一センター長 ～

岐阜県内公共団体との連携協定締結状況

【概要】

本学と輪之内町は、令和3年10月22日（金）に防災に関すること、道路・都市環境整備に関すること等、8項目の事業についての協定を締結しました。

本学と輪之内町は、これまでに特定外来種生態調査及び駆除に関する共同研究や、輪之内町地域学校協働本部会議における委員の委嘱などで連携を進めてきましたが、これに加えて本協定は、本学と輪之内町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは29件目です。

協定締結式では、木野輪之内町長からは「すでにくいくつかの連携事業をスタートさせているが、包括的に連携協定を結ぶことにより、より深めたい。行政を進めるには根拠を持って進める必要がある。大学から得る情報を基に説明責任を果たしながら行政を遂行していきたい。」と、森脇学長からは「今回の協定は県内の自治体、県を含めて43のうちの29番目になる。輪之内町とはこれまでも防災や環境分野等で連携して事業を行ってきたが協定締結を機にますます深めていきたい。」と挨拶がありました。

今後、岐阜大学と輪之内町は、地域公共交通計画の策定支援等について連携を進めていく予定です。



協定書を手にする森脇学長（右）と
木野輪之内町長



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/10/28	中日	輪之内町、岐阜大と連携協定 防災やデジタルなど8分野 ～ 森脇久隆 学長 ～

岐阜県と「岐阜県野生動物管理推進センター」 の設置に関する協定」を締結

【概要】

岐阜大学と岐阜県は、令和4年1月20日（木）に野生動物による被害への対策等を目的に「岐阜県野生動物管理推進センター」を岐阜大学構内に設置することとし、それに関する協定を締結しました。

本協定は、平成24年に本学応用生物科学部に設置した「寄附研究部門」の成果を踏まえ、AIやICT技術等の導入によるDX（デジタルトランスフォーメーション）を進め、生物多様性の保全の観点から野生動物による被害への対策を加速・強化し、地域課題の解決と豊かな地域社会の創出に貢献することを目的とし、センターを設置するものです。

岐阜県野生動物管理推進センターでは、「野生動物の生息状況、行動解析等の調査・研究」、「県や市町村が取り組む野生動物被害対策等への指導、支援」、「野生動物被害対策に関わる人材の育成、教育」、「野生動物と人との正しい関わり方について県民への普及、学習支援」、「野生動物被害に関する課題解決への協力」等に取り組めます。

協定締結式では、岐阜大学応用生物科学部 鈴木正嗣教授から協定の概要について説明があり、その後古田肇岐阜県知事、森脇久隆岐阜大学長が協定書に署名を行いました。森脇学長から「岐阜県と岐阜大学は、「生物多様性の保全」と「野生動物による被害対策」について研究と実践に取り組んできたが、今後情報技術を活用し、さらに緻密なものにしていきたい」と今後の展望について挨拶があり、古田知事からは「県と大学が野生動物に関して取り組むセンターの設置は全国初であり、岐阜大学との信頼・協力関係を強化し、引き続き成果を上げていきたい」と挨拶がありました。

本協定を契機として、岐阜県との連携をより一層強化し、県民と地域産業界に貢献できるよう邁進していきます。



協定書を手にする古田知事（左）と森脇学長



挨拶する森脇学長

～将来ビジョンに関連する取組～

岐阜県と「岐阜県野生動物管理推進センターの設置に関する協定」を締結

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/1/21	中日	野生動物研究機関 設置へ 県と岐阜大共同 獣害や感 染症対策に力 ～ 森脇久隆 学長 ～
2022/1/22	岐阜	野生動物, 科学的に管理 推進センター設置で協定 岐 阜大と県 ～ 森脇久隆 学長 ～

岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト 「くるるセミナー20周年記念 特別セミナー」を開催

【概要】

岐阜大学地域協学センターは株式会社十六銀行と、マラソンランナーとして活躍後、さまざまな陸上競技大会において細やかでユニークな選手たちのレポートで印象深いスポーツジャーナリスト・大阪芸術大学教授の増田明美さん（日本パラ陸上競技連盟会長、全国高等学校体育連盟理事、日本障がい者スポーツ協会評議員）をお招きし、2022年1月18日（火）に「スポーツと暮らしとエネルギー」と題して、「くるる20周年記念特別セミナー」を共催しました。当日は、岐阜大学サテライトキャンパスおよびオンラインのハイブリッド形式で開催し、シニアや地域住民等100名以上の参加がありました。

岐阜大学と十六銀行は、概ね60歳以上のシニア世代を対象に、生涯学習やリカレント教育の場を通じて生涯現役社会（生涯活躍社会）の実現や地域コミュニティの活性化を図ることを目的に、2001年10月から「岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト」の一環として「くるるセミナー」を開講しており、今年度で開講20周年を迎えました。本セミナーでは、年間25講座程度、歴史や自然、健康などをテーマとしたセミナーを行っており、2021年12月末時点の延べ受講者数は2万1千人超です。なお、「くるる」とは、活動的なシニア世代をイメージさせる「聞く」（セミナーを受講してみよう）・「見る」（見学してみよう）・「する」（学んだことを実践しよう）の語尾をとり、シニアが社会的にアクティブに「循環」という願いも込めてロゴ化された愛称です。

増田さんは、東京2020オリンピック・パラリンピックのエピソードや国内・海外でのスポーツを中心とした自身の体験をユーモアを交えて話され、論語の「知好楽」を引きながら、何事も楽しんで取り組むことの大切さを強調しました。また、エネルギーや電気の大切さについても訴え、参加者は、増田さんのエネルギッシュな講演に惹き込まれていました。

岐阜大学地域協学センターと十六銀行は、今後も連携・協働し、産学連携プロジェクト・くるるセミナーを通じて、シニアの生涯学習・リカレント教育とそれを通じた地域の活性化・SDGs達成に向けて、より一層発展的に取組を推進していきます。



増田明美さんの講演の様子



益川浩一岐阜大学地域協学センター長の挨拶

岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト
「くるるセミナー20周年記念 特別セミナー」を開催

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/1/19	中日	岐阜・シニア向けセミナー20周年 増田明美さんが講義 ～「岐阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト」くるる セミナー～
2022/1/19	岐阜	歩くことから始めよう 増田明美さん 岐阜市で公演 足の健康呼び掛け ～「岐阜大学・十六銀行産学連携プ ロジェクト」くるるセミナー～
2022/1/22	中部 経済	「くるる」20周年で特別セミナー 十六銀など ～岐 阜大学・十六銀行産学連携プロジェクト」くるるセミ ナー～

次世代地域リーダーの育成及び岐阜市における青少年の健全育成と生涯学習の推進に向けた連携に関する協定を締結

【概要】

本学地域協学センターと公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団が連携し、次世代地域リーダーの育成及び岐阜市における青少年の健全育成と生涯学習の推進を目的として、協定を締結しました。

地域協学センターでは、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）の実施支援機関として、次世代地域リーダーの育成に向けてインターンシップを核とした教育プログラムを実施し、地域・自治体や地元産業界の課題解決に貢献できる地域志向人材の育成を推進しています。

一方、公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団は、岐阜市の外郭団体として生きがいとうるおいに満ちた創造性あふれるまちづくりに寄与することを目的に設立され、岐阜市少年自然の家や岐阜市生涯学習センターなど施設の管理・運営により、青少年の健全育成や市民の生涯学習の振興に資する事業などを行っています。

令和4年1月20日（木）に行われた協定書の締結式において、後藤公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団理事長は「協定を締結することで、今まで以上に、地域協学センターが持っている、地域課題の解決に向けたノウハウや経験を、岐阜市の青少年健全育成と生涯学習の推進に、活かしていただけると期待している」と挨拶がありました。益川地域協学センター長は、「これまでも本学と公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団との間での連携を進めてきたが、これを機により一層連携を深め、未来を担う人材の育成及び活力ある岐阜市のまちづくりに寄与していきたい」と今後の抱負を述べました。

地域協学センターと、公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団は、本協定を締結することにより、これまで以上に連携を深め、岐阜県内の地域創生並びに岐阜県内において地域活性化を担う人材育成に努めていきます。



協定書を手にする後藤理事長（右）と益川センター長



協定締結式の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/1/21	岐阜	地域リーダーを育成 岐阜大と岐阜市教育事業団が協定 学生主体のイベント検討 ～ 地域協学センター 益川 浩一 センター長 ～

次世代地域リーダーの協働育成の推進に関する覚書を締結

【概要】

本学地域協学センターと株式会社技研サービスが連携し、協働して地域の課題解決に貢献できる次世代地域リーダーの協働育成を推進し、活力ある地域の形成・発展を担う人材育成に寄与することを目的として、覚書を締結しました。

地域協学センターは、地(知)の拠点整備事業(COC事業)・地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)の推進部局として、地域を知り、地域の課題を見つけ、地域の課題解決に向けて行動できる「次世代地域リーダー」の育成等を通して、地域創生・地域活性化の一翼を担っています。

一方、株式会社技研サービスは、かねてより公共施設の管理・運営事業等を通じて地域活性化の一翼を担っています。来年度創業60周年を迎え、新本社建設を機に、地域創生・地域活性化に対して更なる役割を果たしていきたいとの考えから、新本社の中にコワーキングスペースを設置し、大学との緊密な連携のもと、「次世代地域リーダー」の協働育成に向けた諸事業を支援・実施することとなりました。

令和4年2月17日(木)に行われた覚書の締結式において、棚橋代表取締役社長は「創業60周年を機に地元への恩返しの意味も含めて、起業家や地域リーダーの育成、地域活性化に貢献できるものと思っている」と挨拶がありました。益川地域協学センター長は、「これまでも株式会社技研サービスと連携を進めてきたが、これを機により一層連携を深め、学内では難しかった実践的な学習ができる新たな拠点としてコワーキングスペースを活用し、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う『次世代地域リーダー』の育成に寄与していきたい」と今後の抱負を述べました。

地域協学センターと、株式会社技研サービスは、本覚書を締結することにより、これまで以上に連携を深め、協働して地域の課題解決に貢献できる次世代地域リーダーの協働育成を推進し、活力ある地域の形成・発展を担う人材育成に努めていきます。



覚書を手にする棚橋代表取締役社長(右)と益川センター長



協定締結式の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/2/18	岐阜	岐阜大協学センターと技研サービス 地域リーダー育成推進 覚書締結 ～ 地域協学センター 益川浩一 センター長 ～
2022/2/18	読売	地域のリーダー 育成へ覚書締結 岐阜大と施設管理会社 ～ 地域協学センター 益川浩一 センター長 ～

将来ビジョン 「大学病院」

大学病院

高度医療拠点としての機能
強化と地域医療への貢献

- 地域連携の基盤に立った拠点機能の強化（バースセンターの県内配置、手術棟の建設、重粒子線治療施設の導入）
- 臨床研修体制の強化と自治体等との連携による地域医療人材の育成
- 臨床研究と創薬・新医療技術開発の推進
- 医療情報（電子カルテ）システムの統合



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

岐阜大学高等研究院遺伝子検査室が 登録衛生検査所に認可

【概要】

本学高等研究院と医学部附属病院が協働してゲノム研究棟内に設置した高等研究院遺伝子検査室が、2021年3月1日付けで登録衛生検査所に認可されました。

本学は、長年にわたり指定難病である副腎白質ジストロフィーとペルオキシソーム病の国内診断拠点として機能してきましたが、研究成果の社会実装を目的に2019年7月に医学部附属病院検査部に難病検査部門を新設するとともに、ゲノム研究棟内に難病検査室を設置し、さらに今回の高等研究院遺伝子検査室の登録衛生検査所認可により、全国の医療機関に難病診断を保険診療にて安定して提供することが可能になりました。

岐阜県では、2021年4月より一般社団法人東海マススクリーニング推進協会主導の下、岐阜県公衆衛生検査センターと県内産婦人科・新生児医療機関、本学医学部附属病院小児科の協力により、県内の出生児を対象に副腎白質ジストロフィーを含めた7つの疾患を追加した、新たな新生児スクリーニング検査が開始されています。また愛知県でも、追加スクリーニング検査に副腎白質ジストロフィーが新たに加わり、両県で全国に先駆けて副腎白質ジストロフィーの新生児スクリーニング検査が実施され、陽性と判定された新生児は名古屋大学医学部附属病院と本学医学部附属病院の小児科を受診し、精密検査は全て本学で行われることとなります。

吉田医学部附属病院長、王副学長（研究・産学連携・情報担当）は、「全国難病患者の診断実績を積み重ねて、社会貢献から大学のプレゼンス向上に寄与することを期待しています。」と激励しました。

引き続き、全国の対象難病患者の早期診断から疾患克服に取り組むとともに、学内における新たな診断法開発等の研究成果の臨床実装にも協力していきます。



集合写真

(左から) 吉田医学部附属病院長、高島ゲノム研究分野助教、下澤ゲノム研究分野長、渡邊検査部副部長、王副学長（研究・産学連携・情報担当）、田中科学研究基盤センター長

岐阜市証明保保(保)第57号

衛生検査所登録証明書

住所 愛知県名古屋市中区不老町1番
氏名 国立大学法人 東海国立大学機構

臨床検査技師等に関する法律第20条の3第1項の規定により、
下記のとおり登録したことを証明する。

記

衛生検査所の名称 岐阜大学高等研究院遺伝子検査室
衛生検査所の所在地 岐阜市柳川1-1
検査業務の内容 遺伝子関連・染色体検査 生体組織系関連遺伝子検査

登録番号 第213409号
登録年月日 令和3年3月1日

令和3年3月1日
岐阜市保健所長 中村 こそ枝

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/5/18	岐阜	新生児の希少疾患追加検査 県内の受検率44% 動画で啓発、順調な滑り出し ～「東海マススクリーニング推進協会」理事長・下澤伸行教授～

オンライン実習「岐阜大学病院バーチャル見学」を開催

【概要】

医学部医学科では、1年生前期に必須科目である「初期体験実習」が実施され、地域の医療・教育・保健・福祉等の施設で毎年実習を行っています。

令和3年6月17日（木）、オンラインシステムを使用して、講義室と岐阜大学病院内（救急領域）をリアルタイムで中継し、施設内の様子を見学したり、ジンバルを利用したスマートフォン等で動きのある中継を試みました。そして、医療スタッフとコミュニケーションをとる実習を行いました。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/6/18	岐阜	岐阜大、中継で救命実習 医療の道, 学びは止めない ～ 医学部医学科1年生、医学部附属病院高次救命治療センター 熊田恵介医師 ～
2021/6/18	中日	救命現場 画面越し見学 岐阜大医学部生 将来へ意識 高める ～ 医学部医学科1年生、医学部附属病院高次救命治療センター 熊田恵介医師 ～

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2020/7/7	CCN 地上デジタル12ch 「エリアトピックス」	オンライン実習「岐阜大学病院バーチャル 見学」の様子を紹介

アレルギーセンター市民公開講座を開催

【概要】

令和3年9月23日（木）に岐阜大学医学部附属病院アレルギーセンターでは、第3回市民公開講座を行い、講演1は当院小児科の水谷有希医師が「アトピー性皮膚炎治療の最前線」、講演2は当院小児科の川本典生医師が「こどもの食物アレルギーアップデート」のテーマでそれぞれ講演をしました。

初のオンライン開催であったため、岐阜市内のみならず飛騨や中濃、西濃、また関西など県外からも予約があり、合計103名に参加いただきました。遠方の方にも参加いただけたことがオンライン開催のメリットと考えています。



講師の先生方

（左から）大西秀典センター長、川本典生医師、水谷有希医師

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/9/29	岐阜	最新治療 アップデートを 岐阜大病院オンライン講座～医学部附属病院アレルギーセンター 大西秀典 センター長～

岐阜県難聴児支援センター開所式を開催

【概要】

令和3年11月1日（月）、本院に「岐阜県難聴児支援センター」が設置され、開所式が行われました。

本センターは難聴児のお子さんに対し保健・医療・福祉・教育の各分野の関係機関と関わり合いながら、新生児期から学齢期までの一貫した支援を行うことを目的として岐阜県と共同して本院に設置されました。

開所式で、古田岐阜県知事は「岐阜大学とは9つ目の連携となる。このセンターで新生児から学齢期まで一貫した支援で寄り添い、障がいをもつ方に対する岐阜県のやさしさを象徴する場としたい」、吉田病院長は「全国的にも数少ないセンターである。新生児期から学齢期の難聴児・家族の窓口となり、早期に診断し、言語領域において遅滞ない発育を支援していきたい」と挨拶がありました。

今後も当院は地域に密着し、医療を通じた社会貢献を一層すすめて参ります。



開所式の様子



センター内の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/9/29	岐阜	最新治療 アップデートを 岐阜大病院オンライン講座 ～ 医学部附属病院アレルギーセンター 大西秀典 センター長 ～

インタラクティブサイネージ贈呈式を実施

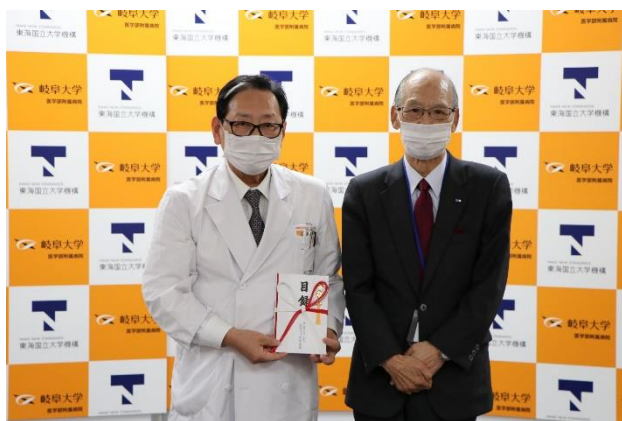
【概要】

令和3年12月23日（木）、株式会社電算システムから本院に寄附金及びインタラクティブサイネージの寄贈があり、これに対して本院から感謝の意を込めて贈呈式を行いました。

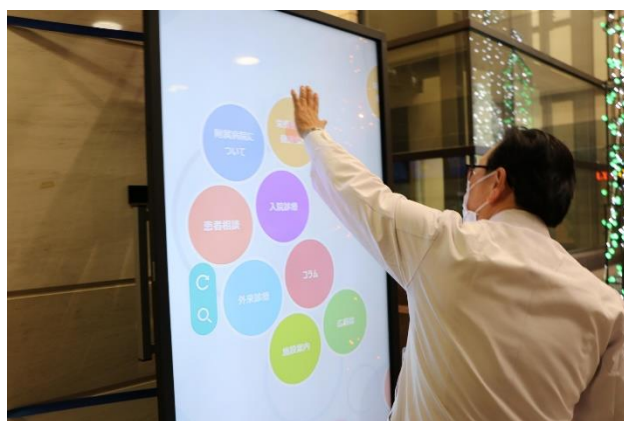
贈呈式では株式会社電算システムの宮地代表取締役会長執行役員から「岐阜大学病院に何かの形で貢献したいという思いから自社のサイネージを贈呈した。患者さんに対してサイネージを利用して岐阜大学病院のPRをしていただき、喜んでいただきたい」と述べ、吉田病院長は「いただいた新しいサイネージを最大限活用させていただき、サイネージが患者さんの憩いの場になればうれしい」と述べました。

寄贈されたインタラクティブサイネージは当院1階イベントホールに設置しております。実際に画面に触れることなく、指を近づけることで知りたい情報のアイコンを選択することができたり、患者さんの目線に応じてアイコン位置が移動するなど様々な機能を有しています。

今後、当院ではこのサイネージを活用して患者サービスの向上を図ります。



贈呈式の様子



インタラクティブサイネージ
を操作する吉田病院長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/12/24	中日	岐阜大病院に電子看板 電算システムが感染防止に寄贈 ～ 医学部附属病院 吉田和弘 病院長 ～
2021/12/26	朝日	岐阜大病院に「対話式電子看板」設置 岐阜市のIT会社 寄贈 画面触れずに情報取得 ～ 医学部附属病院 吉田和弘 病院長 ～

附属病院栄養管理室が日本病態栄養学会年次学術集会 レシピコンテストで入賞

【概要】

令和4年1月30日（日）、本院栄養管理室が日本病態栄養学会年次学術集会レシピコンテストにおいて審査員特別賞を受賞しました。

本レシピコンテストのテーマは、「with コロナで見直す 600kcal 大満足メニュー」で、栄養管理室からは『いつものカレーを本格的に』というレシピを投稿しました。

コロナ禍でおうち時間が増えるなかで、普段はカレールウのみで簡単に作ってしまうカレーライスですが、ひと手間加え、カレールウとスパイスを組み合わせることで本格的なカレーをご自宅でも楽しむことができます。また、スパイスが持つ様々な効能について興味を持ち、日々の暮らしにアクセントをつけていただきたいと思います。

栄養管理室では、病院食に行事食や特別メニューの日を設け、入院中の患者さんが安心安全な食事を楽しみながら召し上がっていただけるようにしています。



いつものカレーを本格的に

※ レシピは、栄養管理室ホームページ withコロナで見直す600kcal大満足メニュー
でご覧いただけます。

<https://www.hosp.gifu-u.ac.jp/origin/nutrition/recipes/2022/02/10/post-31.html>

岐阜大学医学部附属病院手術棟竣工式を実施

【概要】

令和4年3月6日(日)、手術棟竣工式を行いました。

竣工式では関係者によるテープカットが行われた後、吉田附属病院長から挨拶がありました。

吉田病院長は「既存の手術室に加え、5つの新しい手術室が増えることで患者さんがスムーズに手術を受けられるようになり、岐阜県の医療にさらに貢献することができるようになった」と述べました。

新手術棟内は、最新鋭の血管造影装置を備えたハイブリッド手術室や、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を使用できる手術室、ナビゲーション手術ができる陰圧手術室等を有し、これまで以上に高度で先進的な医療の提供が可能となります。



テープカットの様子



新手術棟の様子

学生活動等



医学部看護学科学生がオンライン教材（健康体操）考案

【概要】

本学医学部看護学科4年生の保健師課程の学生19名が、5月から8月にかけて、公衆衛生看護学実習に臨みました。公衆衛生看護学実習とは、看護職の中でも主に、健康づくりや予防医療等に携わる『保健師』を目指す学生を対象にした実習です。本学では、2年次に実施される保健師課程選考試験に合格した学生が、保健師課程に進むことができます。

令和3年度の公衆衛生看護学実習は、主に岐阜県内の3市で実施し、羽島市で実習を行った学生が、新型コロナウイルス感染症の拡大により自粛生活が余儀なくされる中、地域住民の方々の運動不足解消や親子ふれあいあそび等に活用できるオンライン教材（健康体操）を考案し、「清流の国ぎふ」マスコットキャラクターミナモと一緒に収録を行うこととなり、このとき収録した動画がYouTube『羽島市公式チャンネル』等で配信されました。保健師課程の学生の取り組みを是非ご覧ください。



ミナモと一緒に収録を行う看護学科4年生の保健師課程の学生ら

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/8/29	朝日	親子で体操を 岐阜大生が動画 羽島市HPで公開 ～ 医学部看護学科4年生6人～

「学生フォーミュラ日本大会2021」 プレゼンテーション審査において1位を獲得

【概要】

令和3年8月24日（月）～9月6日（月）に行われた「学生フォーミュラ日本大会2021」に出場した岐阜大学フォーミュラレーシングがプレゼンテーション審査において1位を獲得しました。

学生フォーミュラ日本大会2021は学生が自ら構想・設計・製作した車両により、ものづくりの総合力を競う大会です。今回はコロナウイルスの影響で動的審査が中止となり、静的審査のみとなりました。

本学学生チームは学生フォーミュラ日本大会2021において、自分たちの製作したフォーミュラカーの販売戦略として、身体障害者と健常者をつなぐレースプロジェクトの展開について発表を行いました。

10月11日（月）には、今回の成果について、学生チーム及び顧問教員による森脇学長への報告会が行われ、社会問題の解決に取り組む視点が評価されました。

グランプリに出場した学生は、「プレゼンテーションを行うメンバーだけでなく、チーム全員で資料作成を行い、チームの総合力で1位を獲得することが出来た」と報告し、森脇学長は、「今年中止になった動的審査も含め、来年も期待しています」と激励しました。



受賞報告の様子



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/10/12	中日	誰もが運転しやすい車 学生フォーミュラ 岐阜大チームプレゼン最優秀 ～「岐阜大学フォーミュラレーシング」顧問 菊池聡 准教授，自然科学技術研究科1年 牧田竜汰さん，工学部機械工学科3年 小堀貴俊さん，同 近藤祐貴さん～
2021/10/14	岐阜	学生フォーミュラ・レース車開発 岐阜大チームが7位 障害者向けに補助装置 ～自然科学技術研究科1年 牧田竜汰さん（リーダー），工学部機械工学科3年 小堀貴俊さん，同 近藤祐貴さん～

「愛知県大学対抗ハッカソン"Hack Aichi"」 最優秀賞を受賞

【概要】

令和3年9月11日（土）～19日（日）に行われた「愛知県大学対抗ハッカソン"Hack Aichi"（愛知県主催）」に出場した本学学生チームが最優秀賞を受賞しました。

ハッカソンとはソフトウェアのエンジニアリングを指す「ハック」と「マラソン」を組み合わせた造語で、ITを活用して新たなサービスや製品等の開発を競い合うイベントです。

本学学生チームはハッカソンにおいて、IoTとAIの技術を用いてデバイス・システム開発を行い、古い機器の見える化やデータ収集など、新しい活用方法を提案しました。

10月11日（月）には、今回の成果について、学生チーム及び指導教員による森脇学長への報告会が行われました。

ハッカソンに出場した学生は、「他大学のチームはアプリ開発のみを意識していたが、こうしてIoTデバイスを含んだ統括的なシステムを開発できたのは、開発環境が整っていた研究室のおかげである」と報告し、森脇学長は、「大会を通じていいチームになったと思う。研究室でもこのチームワークを活かしてほしい」と称えました。



受賞報告の様子



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/10/13	岐阜	岐阜大生 最優秀賞 愛岐大学対抗IT技術大会 古い設備の稼働記録 見える化 ～工学部機械工学科4年 富田一平さん、佐橋篤典さん、佐藤彰紀さん、長谷川和樹さん、チャン・ヴァン・チュンさん～
2021/10/16	中日	AI活用 設備稼働状況把握 ハッカソン 岐阜大チーム最優秀 ～工学部機械工学科4年 富田一平さん、佐橋篤典さん、佐藤彰紀さん、長谷川和樹さん、チャン・ヴァン・チュンさん～

岐阜大学生チーム「iGEM Gifu」 2021 iGEM Giant Jamboreeで金賞を受賞

【概要】

令和3年11月4日～14日にオンラインで開催された2021 iGEM Giant Jamboreeに出場した岐阜大学学生チーム「iGEM Gifu」が、金賞を受賞しました。

本大会は学生を主体とした合成生物学の世界大会です。この大会において、iGEM Gifuチームは "Trans-cleavage Endonuclease Specific Fatigue Quantification System (TESTIFY)" 「ヒトヘルペスウイルス6型をバイオマーカーとしたCas12aによる疲労の定量」の表題で発表を行いました。金賞は15ある課題のうち11以上の課題を達成したチームに与えられるもので、2014年の団体設立以来悲願の受賞となりました。

また、各部門賞では研究成果を報告するWiki作成部門において、全356チームの中から部門別に優れた10チームが選出されるBest WikiにiGEM Gifuチームがノミネートされました。

11月18日（木）には、iGEM Gifuのメンバーが学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。iGEM Gifuメンバーは発表内容について報告し、森脇学長からは、「来年以降も続けていってほしい。期待しています。」と激励がありました。



受賞報告の様子



iGEMメンバーと学長、指導教員

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/12/3	岐阜	岐阜大チーム世界「金」 「唾液でストレス数値化」 仮説提唱 合成生物学大会「iGEM」 活性化するウイルスに着目 ～ 研究サークル「iGEM Gifu」 4年 五十川祐一郎さん、3年 佐藤杏香さんら ～

起業部学生チームが「Tongaliアイデアピッチコンテスト2021」「2021東海学生AWARD」で最優秀賞を受賞

【概要】

令和3年11月13日（土）に行われたTongaliアイデアピッチコンテスト2021において、起業部学生3チームが最優秀賞にあたるTongali賞を受賞しました。また、令和3年11月14日（日）に行われた2021東海学生AWARDにおいて教育学研究科1年の杉江萌花さんが最優秀賞を受賞しました。

Tongaliアイデアピッチコンテスト2021は東海地区の大学を中心に学部生・大学院生・ポストドクターを対象とした、自らが温めているアイデアや解決したい課題などを発表し、実現を目指すマインドの醸成を目的としたコンテストです。2021東海学生AWARDは東海にゆかりのある高校生から大学院生までの学生が、多くの聴衆の前で自分の夢や志を熱く語る挑戦の舞台です。

11月29日（月）には、起業部の受賞メンバーが学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。起業部のメンバーは「起業部というコミュニティがあったからチームがお互いに相談でき、ブラッシュアップすることができた」と報告し、森脇学長からは、「後輩にもこの経験を伝えていってほしい」と称えました。



受賞報告の様子



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/11/30	中日	「東海学生AWARD」など 岐阜大生が最優秀報告～森脇久隆学長，教育学研究科1年 杉江萌花さん～
2021/11/30	岐阜	岐阜大3チーム最優秀 東海地区起業家アイデアコンテスト 学長に喜び報告～森脇久隆学長，上原雅行准教授，地域科学部3年 夏目一輝さん，教育学部3年 伊藤彰彦さん，地域科学部3年 長谷川翼さん，工学部4年 加藤満基さん，教育学部3年 鈴木広大さん，教育学研究科1年 杉江萌花さん～

「eco検定アワード2021」エコユニット部門 大賞を受賞

【概要】

本学は「eco検定アワード2021」エコユニット部門で、教育機関で初めてとなる大賞を受賞しました。2018年より優秀賞、奨励賞を受賞しており、今回で4年連続の受賞となります。

「eco検定アワード」は、環境活動を実践しているエコピープル（eco検定合格者）及びエコユニットの活動を顕彰することで、より多くの企業や団体、個人が積極的に環境に関する知識を身に付け、実際にアクションをおこす一助となることを目的としています。

本学は、地域課題解決に貢献する人材育成のため大学で推進している「次世代地域リーダー育成プログラム」に岐阜県との連携のもとで「環境リーダーコース」を新設させた点や、学生が環境報告書の編集や内部環境監査へ積極的に参画している点、また学生主体の自然再生プロジェクトが「サステイナブルキャンパス賞2020学生活動部門」を受賞するなど、各種表彰につながる成果をあげた点等について評価いただいたの受賞となり、令和3年11月26日の表彰式に参加しました。

今後も環境に配慮した特色ある諸活動を継続的に取り組んでいきます。



eco検定アワード2021 表彰式



表彰状

ASCN (アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク)2021年次大会において「金賞」を受賞

【概要】

令和4年1月22日に開催されたASCN2021年次大会（Web開催）の学生活動報告において、4カ国14団体より発表があり、岐阜大学環境サークルG-amet（ジャメット）が行った「鶺鴒池(ばんがいけ)自然再生プロジェクト」についての活動報告が「金賞」を受賞しました。

「鶺鴒池自然再生プロジェクト」とは、環境サークル G-ametが取り組む学生主体の生物多様性保全・自然再生プロジェクトです。半世紀近くが経過し、自然環境の劣化と生物多様性の低下が進んだ"鶺鴒池"に、名前の由来となった水鳥「バン」が戻ってくるような環境づくりを目指して、学内外の専門家の協力のもと科学的知見や順応的管理に基づいた様々な取り組みを実施しています。今回は英語でプレゼンテーションを行い、2019年から始まったプロジェクトの継続的な取り組みが評価されての受賞となりました。

岐阜大学は今後も様々な環境活動を推進し、持続可能な社会への貢献を目指します。



プレゼンする環境サークルG-ametの学生
（左から 田中ひなたさん（応用生物科学部
1年）、豊川雛衣さん（同2年）、高橋憲紀
さん（同3年）
※ 中藤駿さん（同4年）は自宅より参加）



表彰状

※ASCN (Asian Sustainable Campus Network) とは、アジアにおけるサステイナブルキャンパスの推進を目的に、CAS-Net JAPAN（日本）、China Green University Network（中国）、Korean Association for Green Campus Initiative（韓国）、Sustainable University Network of Thailand（タイ）の間で構築されたネットワーク

その他



国立大学法人東海国立大学機構 (航空宇宙生産技術開発センター開所)

【概要】

国内初となる航空宇宙生産技術に関する科学的・体系的な教育・研究開発を行う拠点として、岐阜大学に設置されました。産学金官が連携し、将来の航空宇宙産業界に必要とされる人材の育成、研究開発を行います。2020年より、東海国立大学機構 航空宇宙航空宇宙研究教育拠点 の組織として、名古屋大学とともに活動しています。

航空宇宙産業の集積度が高い中部圏は、内閣府により国際戦略総合特区として指定され、今後も成長が期待されています。労働集約型工場が多い航空宇宙産業では、抜本的な生産性向上が求められていますが、そのために必要とされる生産技術は、関係する学問や技術分野が極めて広く、網羅的に教育・研究を行う機関が求められていました。

当センターでは、岐阜大学が持つ航空宇宙生産技術と、名古屋大学が持つ航空宇宙設計技術の互いの強みを生かし、必要とされている教育・研究、地域企業との連携を行うことで、魅力ある大学づくりと地域産業のさらなる発展を支えます。

令和3年4月19日(月)には、航空宇宙生産技術開発センター開所記念式典を執り行い、古田肇岐阜県知事、松尾清一東海国立大学機構長、森脇久隆岐阜大学長、その他岐阜県や企業の関係者等およそ45名が開所記念式典に出席し、本センターの本格運用開始を祝福しました。

式典では、関係者による挨拶の後、テープカットで開所を祝い、グループに分かれて施設内を見学する内覧会が行われました。また、式典終了後には、「空飛ぶクルマ」と題して、株式会社スカイドライブの最高技術責任者 岸信夫氏による講演が行われ、オンライン配信も含めおよそ400名の関係者や学生が聴講しました。



テープカット



内覧会

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/4/5	毎日	生産性向上 地方創生へ ～ 航空宇宙生産技術開発センター長 小牧博一さん ～
2021/4/20	岐阜	航空宇宙産業の国際競争力向上、人材育成 生産技術開発センター開所 産学金官連携、岐阜大内に
2021/4/20	中日	航空宇宙研究拠点 岐阜大構内に開所 生産技術開発センター
2021/4/20	読売	航空宇宙産業の新拠点 岐阜大敷地に 技術開発や人材育成
2021/4/20	毎日	航空宇宙開発の拠点に 岐阜大で生産技術センター本格稼働 工作ロボや運搬技術など開発
2021/4/20	日本経済	航空機部品の生産 効率化 岐阜大・名大が新研究拠点 AI管理や人材育成
2021/4/20	中部経済	岐阜大の宇宙産業拠点が本格稼働
2021/4/21	朝日	航空宇宙研究拠点 岐大の構内に開設 ～ 航空宇宙生産技術開発センター ～

国立大学法人東海国立大学機構 (環境報告書2021を発行)

【概要】

2020年度の活動をまとめた環境報告書2021より、東海国立大学機構として環境報告書を令和3年9月22日に発行する運びとなりました。記念すべき第一号である本報告書では、若い世代の意見を反映させるため多数の学生に編集に参加してもらい、研究に関するインタビュー記事も掲載しています。

また、機構長×副機構長、岐阜大生×名古屋大生の対談など、統合したからこそできる新たな試みに多く挑戦し、今までの各大学の報告書をより発展させた新たな1冊となりました。



※ 環境報告書2021は下記のURLよりダウンロードできます。
https://cms.adm.thers.ac.jp/disclosure/upload/20210922_kankyo.pdf

国立大学法人東海国立大学機構 (次期 機構長候補者／大学総括理事候補者)

【概要】

国立大学東海国立大学機構長選考会議は、令和3年9月13日開催の本会議において、全会一致で、現、国立大学法人東海国立大学機構長 松尾 清一 氏を次期機構長候補者として最終選考しました。任期は令和4年月1日～令和10年3月31日です。

松尾 清一次期機構長候補者は、令和3年9月28日開催の国立大学東海国立大学機構機構長選考会議において、大学総括理事として下記の者を任命することについて意見を聴き賛同を得たことから、同人を大学総括理事候補者として文部科学大臣に申し出ることとしました。任期は令和4年月1日～令和10年3月31日です。

現職・氏名 国立大学法人東海国立大学機構副理事
岐阜大学医学部附属病院長 吉田 和弘 氏

現職・氏名 国立大学法人東海国立大学機構理事
岐阜大学副総長 杉山 直 氏

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/9/14	岐阜	松尾東海国立大学機構長を再任 ～ 松尾 清一 機構長 ～
2021/9/14	中日	機構長候補に現職の松尾氏 東海国立大学機構 ～ 松尾 清一 機構長 ～
2021/9/14	朝日	次期機構長に現職の松尾氏 東海国立大学機構 ～ 松尾 清一 機構長 ～
2021/9/14	読売	東海国立大機構長 再任へ ～ 松尾 清一 機構長 ～
2021/9/14	毎日	次期機構長候補 現職再選を決定 東海国立大機構 ～ 松尾 清一 機構長 ～
2021/9/14	日本 経済	機構長に松尾氏続投 東海国立大学機構 ～ 松尾 清一 機構長 ～
2021/9/14	中部 経済	松尾清一氏を機構長に再任 名大と岐阜大の運営法人 ～ 松尾 清一 機構長 ～

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/9/14	日刊工業	東海国立大機構 松尾機構長再任 ～ 松尾 清一 機構長 ～
2021/9/29	岐阜	岐阜大学長に吉田氏 来年4月就任 文科相が任命へ ～ 医学部附属病院 吉田 和弘 病院長 ～
2021/9/29	中日	名大学長 杉山氏 岐阜大は吉田氏 次期候補決定 ～ 医学部附属病院 吉田 和弘 病院長 ～
2021/9/29	朝日	名大の次期総長 杉山氏が候補に 岐阜大学長は吉田氏 ～ 医学部附属病院 吉田 和弘 病院長 ～
2021/9/29	読売	次期名大学長 候補に杉山氏 ～ 医学部附属病院 吉田 和弘 病院長 ～
2021/9/29	毎日	名大学長候補 杉山氏に決定 岐阜大は吉田氏 ～ 医学部附属病院 吉田 和弘 病院長 ～
2021/9/29	日本経済	名大新学長候補に杉山氏 岐阜大は吉田氏 ～ 医学部附属病院 吉田 和弘 病院長 ～
2021/9/29	中部経済	名古屋大学長に杉山氏 候補決定 岐阜大は吉田氏 ～ 医学部附属病院 吉田 和弘 病院長 ～
2021/9/29	日刊工業	岐阜大学長に吉田氏 名大総長には杉山氏 ～ 医学部附属病院 吉田 和弘 病院長 ～

国立大学法人東海国立大学機構 (『東海クライマックスシリーズ』を開催)

【概要】

国立大学法人東海国立大学機構（以下、「東海機構」）航空宇宙生産技術開発センターは、岐阜メモリアルセンター（ふれ愛ドーム）において、岐阜大学/名古屋大学の学生が企画・設計、製作した飛行ロボット（自律滑空機）の中から優秀機を選抜し、東海No.1を決める対抗戦、『東海クライマックスシリーズ』を開催しました。

本センターでは「地方大学・地域産業創生交付金」を活用して、岐阜県や岐阜大学、名古屋大学、地元産業界との産学官連携により、大学生や就業者を対象とした航空宇宙産業の「生産技術」に関する人材育成と研究開発を実施する「航空宇宙生産技術人材育成・研究開発プロジェクト」を推進しています。

令和2年4月の東海機構設立に伴い、岐阜大学と名古屋大学が連携して、今年の4月から本格実施を開始した、設計技術・生産技術・飛行実証技術を一貫して習得・実体験できる「航空宇宙設計・生産融合人材育成プログラム」の一環として、岐阜大学では工学部所属の4年生、名古屋大学では工学部所属の3年生を対象とした授業の中で、複数の学生でチームを編成し、協力して飛行ロボットの構想・設計、およびその製作を行っています。

この東海クライマックスシリーズは、各大学にて事前に飛行発表会を実施し、その中から選抜された優秀機を一堂に会して、どの機体がどこまでうまく飛行させられるかを競うものとなり、学生が作製した機体の東海No.1を決定するものです。



各大学の飛行ロボット授業で学生が作製した機体の東海No.1決定戦

岐阜大学

東海地区国立2大学
飛行ロボット授業
優秀機選抜対抗戦

東海クライマックスシリーズ

Tokai Climax Series of Students' Handmade Flying Robots

2021年 岐阜メモリアルセンター（JR名鉄 岐阜駅から岐阜バスで20分）
9月29日（水） 13:30～16:30

航空機械系の大学や大学院進学をお考えの高・大学生、工学教育に興味のある方などどなたでも参加できます

←から事前参加予約が必要です(参加無料) お問い合わせ先: 航空宇宙生産技術開発センター
Email: ipteca@gifu-u.ac.jp Tel: 058-293-3714

東海国立大学機構

MAKE NEW STANDARDS

プログラム (Part 1 競技会は13:30開始です。詳しくは予約ホームページをご覧ください。)

Part 1 飛行ロボット競技会 各大学の飛行性能上位機体が集合！東海No.1を決定！

Part 2 飛行ロボット大反省会 全機体の全飛行動画を参加者全員で振り返ります。

Part 3 特別講演 「航空機加工技術概要—その歴史と最近のトピックス—」
川崎重工業株 酒井昭仁フェロー

内閣府：地方大学・地域産業創生交付金（日本一の航空宇宙産業クラスター形成を目指す生産技術の人材育成・研究開発）の支援を受けています。
協賛：航空宇宙産業学生技術人材育成・研究開発学術協議会

主催：東海国立大学機構 航空宇宙生産技術開発センター / 開催協力：名古屋大学全学同窓会、川崎重工業株 / 後援：岐阜県

名古屋大学



東海クライマックスシリーズの様子



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/9/30	岐阜	飛行ロボ, 限界を超える 岐阜大と名大, 性能競う ～ 工学部機械工学科4年 岡崎翔太郎さん ～
2021/9/30	中日	飛べ! オリジナル機体 岐阜大生と名古屋大生 飛距離競う ～ 工学部機械工学科4年 岡崎翔太郎さん ～

放送日等	番組名	内容
2021/10/6	東海テレビ 16:50～19:00 「ニュースOne」	東海クライマックスシリーズの様子の紹介
2021/10/6	ぎふチャン 18:15～ 「ぎふサテ！」	東海クライマックスシリーズの様子の紹介

国立大学法人東海国立大学機構

(統合報告書2021を発行)

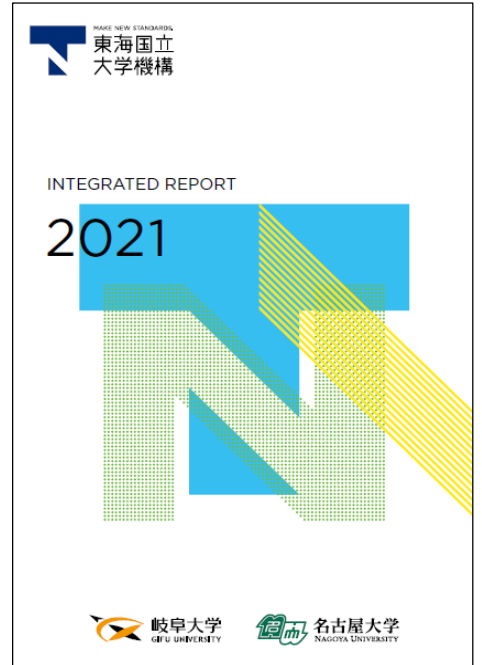
【概要】

このたび、東海国立大学機構は、一法人複数大学を設置する国立大学法人が発行する初めての統合報告書「東海国立大学機構INTEGRATED REPORT2021」を令和3年11月10日に発行致しました。

本報告書では、岐阜大学と名古屋大学が法人統合を行った背景や統合の目的、目指す姿、統合時に掲げたビジョン・戦略について分かりやすく伝えるように意識して作成しています。

また、一般的に公共法人が発行する統合報告書は、企業と比較すると事業の継続性についての記載が少なくなる中、一般の投資家の方にもご理解頂けるように国際統合報告フレームワークで必要とされる8つの内容要素を踏まえ、リスクと機会の分析、外部環境が事業運営に与える影響、事業戦略、アウトプット・アウトカムの一貫性を意識した価値創造ストーリーの構築を目指しました。

今後、大学関係者のみならず、多様なステークホルダーの皆様のご意見を取り入れながら、本機構の価値創造について、多くの方々にご理解を頂けるように内容の充実を図っていきます。



※ 統合報告書は下記のURLよりダウンロードできます。
<https://www.thers.ac.jp/news/2021/11/20211110-tougou.html>

国立大学法人東海国立大学機構 (ヒューマングライコームプロジェクトにおける 連携・協力に関する覚書を締結)

【概要】

東海国立大学機構は、この度、自然科学研究機構並びに創価大学とともに生命科学の重要事業として、ヒューマングライコームプロジェクト（代表者：糖鎖生命コア研究所 所長 門松健治）を開始するため、本プロジェクトの連携・協力に関する覚書を締結しました。

締結に伴い、令和3年11月11日（木）に文部科学省記者会見室において、3機関による記者会見を実施しました。

糖鎖は、細胞表面やタンパク質に結合している糖がつながった構造であり、「ヒューマングライコーム」とは、ヒトの網羅的糖鎖情報を意味します。本プロジェクトは、ヒトの糖鎖情報をデータベース化し、国内外の研究者・研究機関に公開することで、次世代生命科学への飛躍的な発展と、医療・ヘルスケア革新の実現を目指します。

本プロジェクトは、科学技術・学術審議会が2020年9月に公表した「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップの策定 -ロードマップ2020-」に掲載され、東海国立大学機構の名古屋大学及び岐阜大学が共同で設置する糖鎖生命コア研究所、自然科学研究機構生命創成探究センター及び創価大学糖鎖生命システム融合研究所の3つの研究施設が連携し、中核となって推進します。

記者会見では、文部科学省の共同利用・共同研究拠点に認定された、上記3つの研究施設で構成する「糖鎖生命科学連携ネットワーク型拠点」についても説明するとともに、12月6日に実施予定のヒューマングライコームプロジェクト特別シンポジウムの開催についても紹介しました。



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/11/12	中日	糖鎖の全容解明へ連携 東海国立大機構など3者覚書

国立大学法人東海国立大学機構 (信用格付け新規取得)

【概要】

東海国立大学機構では、国際的な競争力向上と地域創生への貢献を両輪とした発展を目指し、経営改革に取り組んでいるところです。経営状況に対する客観的な評価を得ることによりステークホルダーの皆様に対して経営の透明性を高め、多様な資金調達の手段を確保することを目的として、令和3年12月1日（水）に株式会社格付投資情報センター（R&I）及び株式会社日本格付研究所（JCR）による信用格付を新規に取得しました。

【格付機関、格付けの名称及び格付】

格付機関	格付けの名称	格付	方向性
格付投資情報センター（R & I）	発行体格付	AA+	安定的
日本格付研究所（J C R）	発行体格付	AAA	安定的

国立大学法人東海国立大学機構
『生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム』
文部科学省 職業実践力育成プログラムに認定

【概要】

航空宇宙生産技術開発センターにて社会人向け履修証明プログラムとして実施する「生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム」が、令和3年12月21日に文部科学省から職業実践力育成プログラム（BP）（※）として認定されました。

「生産システムアーキテクト・リーダー育成プログラム」は、最先端の機器を利用した実践教育により社会人の生産システムアーキテクトとして企業の若手リーダーや将来の幹部候補生の育成を目指したものであり、座学・討論・実習を通じた総合的・実践的な学びにより第4次産業革命時代のリーダーとしての能力を養うものです。

各科目は、学術研究を専門とした大学教員のみならず、企業経験豊富な大学教員や航空業界・自動車業界等の製造業の技術者が担当し、経営や原価、品質、製造業DXなど最先端の製造業に係る知識・技術を修得できるカリキュラムとなっています。特に、総時間数72.5時間のうち50時間を占める「製造技術特論」では、航空宇宙生産技術開発センター内に設置された電動模型飛行機の自動組立ライン装置を活用した工程管理・工程設計の講義と実習、ロボット操作やPLC（Programmable Logic Controller：プログラマブルロジックコントローラー）のプログラミング実習を行うことで、技術者としての生産システム構築の総合的な実務基礎力を修得することができます。

※ 職業実践力育成プログラム（BP）

大学・大学院・短期大学・高等専門学校におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な実践的かつ専門的な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定するものです。これにより、①社会人の学び直す選択肢の可視化、②大学等におけるプログラムの魅力向上、③企業等の理解増進を図り、厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携し、社会人の学び直しを推進するとされています。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/1/28	読売	岐阜大 航空産業貢献へ 航空宇宙生産技術開発センター 教育講座 文科省認定 ～ 航空宇宙生産技術開発センター 小牧博一 センター長 ～

国立大学法人東海国立大学機構

(経済産業省
産学連携推進事業費補助金 (地域の中核大学の産学融合拠点の整備) に採択)

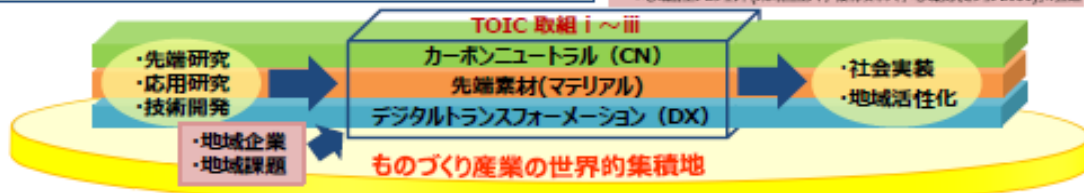
【概要】

東海国立大学機構は、令和4年3月24日に経済産業省の「令和3年度「産学連携推進事業費補助金 (地域の中核大学の産学融合拠点の整備)」」に採択されました。

この事業は、地域の中核大学等が強みや特色を有する研究分野において、企業やベンチャー、自治体等との連携を強化することによって、イノベーション創出や地域経済活性化を促進することを目的としています。また、地域の中核大学等が強みや特色を有する研究分野において、企業と大学等が連携しオープンイノベーションを推進するための産学融合機能を担う「Jイノベ拠点」の「プラットフォーム型」として、①企業との共同実験施設・設備の整備、②インキュベーション施設・設備の整備、③オープンイノベーション推進施設・設備の整備の3タイプの整備を支援するものです。

本事業では、東海国立大学機構のガバナンスのもと、東海地域が世界的競争力を持つ製造産業のコアコンピタンスと未来材料・システム研究所等の研究リソースやコアファシリティーを活かし、先端材料、CN、DXを核とする横断的産学連携プロジェクトに取り組む施設環境を整備し、地域企業・金融機関・アカデミア協同のオープンイノベーションの実践、及びスタートアップの起業環境の整備、地域のステークホルダーとの交流・対流の促進により、人材育成や地域産業の飛躍的・持続的な発展に貢献に資する取組を推進していきます。

事業全体像「地域の産学連携オープンイノベーション拠点」



第72回岐阜新聞大賞

【概要】

学識経験者らによる選考委員会（委員長：森脇学長）で慎重に審査した結果、令和3年度「第72回岐阜新聞大賞」が6氏に贈呈され、学術部門では、本学教授の中澤和馬氏が受賞しました。

贈呈式は令和3年2月5日（土）に岐阜放送テレビスタジオにて行われました。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/2/6	岐阜	6氏の活躍，未来開く 岐阜新聞大賞贈呈式 ～ 専攻委員長 森脇久隆 学長，学術部門 仲澤和馬 教授 ～

